



北信がんフロ

超少子高齢化地域での 先進的がん医療人養成

2020年度 事業報告書



石川県公立大学法人
石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

目 次

巻頭言

・はじめに	1
	牧野 智恵

2020年度

がん看護専門看護師 (Oncology Certified Nurse Specialist:OCNS) 育成の取り組み

1 本科生の育成

・「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」(北信がんプロ)の概要と 本学におけるがん看護専門看護師養成	5
	牧野 智恵
・北信がんプロ 本科生としての学び	7
	北川 寿子 天日 更織 池上 暁

2020年度本学において超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 (北信がんプロ)にて企画・実施した内容の報告

2 インテンシブコース

・今年度の本学におけるインテンシブコースの成果	13
	牧野 智恵
・ライフステージ事例検討会の運営に携わって	15
	松本 智里
・ライフステージ事例検討会に参加して	16
	大江 真吾
・ライフステージ事例検討会に参加して	17
	池上 暁
・ライフステージ事例検討会 参加者アンケート集計結果	18
	岡山のぞみ
・ライフステージ事例検討会 参加者人数	22
	岡山のぞみ
・ライフステージ事例検討会 ポスター	24

3 看護実践セミナー

「リンパ浮腫ケアについて 臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編/アドバンス編」

- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編を開催して 26
今方 裕子
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編 28
講師 富山県立中央病院 時山 麻美
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編に参加して 29
天日 更織
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編 ポスター 30
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編 参加者アンケート集計結果 31
岡山のぞみ
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編を開催して 35
桶作 梢
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編 37
講師 石川県済生会金沢病院 高地 弥里
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編に参加して 38
池上 暁
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編 ポスター 39
- ・臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編 参加者アンケート集計結果 40
岡山のぞみ

4 合同市民公開講座

「がんになっても自分らしい人生を過ごすために～今から家族と人生会議（ACP）を～」

- ・がんになっても自分らしい人生を過ごすために
～今から家族と人生会議（ACP）を～を企画して 42
牧野 智恵
- ・病気になっても自分らしく生きている私の人生 44
御供田幸子
- ・厚労省ガイドラインとアドバンス・ケア・プランニング（ACP） 45
講師 武蔵野大学 樋口 範雄
- ・がんになっても自分らしい人生を過ごすために
～今から家族と人生会議（ACP）を～に参加して 46
松本 智里

・がんになっても自分らしい人生を過ごすために
～今から家族と人生会議（ACP）を～ ポスター 47

・がんになっても自分らしい人生を過ごすために
～今から家族と人生会議（ACP）を～ 参加者アンケート集計結果 48
岡山のぞみ

5 北陸CNSの会 共催企画

・CNS関係者によるがん看護事例検討会を開催して 54
瀧澤 理穂

・CNS関係者によるがん看護事例検討会に参加して 55
濱鍛治青水

・CNS関係者によるがん看護事例検討会に参加して 56
天日 更織

・CNS関係者によるがん看護事例検討会 ポスター 57

・CNS関係者によるがん看護事例検討会 参加者アンケート集計結果 58
岡山のぞみ

6 市民公開講座

「AYA世代のがん体験談からその支援を考える」

・AYA世代のがん体験談からその支援を考える ポスター 62

<おわりに>

・令和二年の「北信がんプロ」の1年を振り返って 63
牧野 智恵

2020年度「北信がんプロ」委員会、本学企画・運営担当者 一覧表 64

はじめに



石川県立看護大学学長補佐
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）
石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員
企画・総務委員長 牧野 智恵

がんは、我が国の死因第一位の疾患で、生涯のうちに約2人に1人が罹患するといわれ、約3人に1人はがんで亡くなるとも言われております。

2017年度からスタートした「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（2017-2021：文部科学省）に採択された「北信がんプロ」（基幹校：金沢大学）の一員として、石川県立看護大学は、看護職の立場からがん看護に関する専門医療人の養成を行っています。

この「北信がんプロ」は、「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」をテーマにし、がんゲノム医療、小児がん、希少がん、AYA世代や高齢者のライフステージに応じたケアに対応できる医療従事者を養成することを目的としています。本学は、小児看護から老年看護まで、年齢幅を広げた取り組みを展開しております。また、本学は、石川県の能登地域の入り口に位置するかほく市にあり、過疎地域の住民の健康問題、医療問題、看護の課題に対して、従来から研究や支援をしてまいりました。学部学生・大学院生も過疎地域で学ぶ機会が多く、知らず知らずに過疎地域への親和性を高めております。そのようなことから、過疎地域におけるがん看護やがん医療の問題に取り組んでおります。

第3期がん対策基本推進計画では「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す」と述べられております。その施策には、「小児がん、AYA（Adolescent and Young Adult）世代のがん、高齢者のがん医療の充実」「ライフステージに応じたがん対策」が示されています。

北信がんプロは、金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学など医学部を持つ大学が中心となっているなか、本学は看護の単科大学として看護を中心とした教育、企画を検討してきました。

今年度は、新型コロナウイルスによる感染拡大の影響を受け、本プログラムをどの程度実施できるか危惧しておりました。しかし、医療関係者の知恵とリモートの技術の助けを借りながら、何とか予定の8割は実施することができたと思っております。特に、6大学での合同市民公開講座を本学が中心となり、「がんになっても自分らしい人生を過ごすために ～今から家族と人生会議（ACP）を～」を金沢駅前のホテルで開催できたことは大きな成果と思っております。コロナ渦において、会場参加者とリモートによる参加者をあわせ181名の方に聴講いただけたようで、大変うれしく思っております。

発行の時期の関係上、12月までに開催した活動内容を、本報告書に掲載しております。本報告書で掲載されている内容の他に、2021年3月には、「AYA世代のがん体験談からその支援を考える」と題した市民公開講座を実施しております。

本学のホームページにも、今年度までのがんプロ企画で実施した研修内容を見ることができるよう整備いたしました。是非、本学のホームページやがんプロのホームページをご覧ください、がん医療の知識を習得いただければ幸いです。

令和3年3月吉日

2020年度
がん看護専門看護師
(Oncology Certified Nurse Specialist: OCNS)
育成の取り組み

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」(北信がんプロ)の概要と 本学におけるがん看護専門看護師養成

大学院実践看護学領域・成人看護学(がん看護)分野 教授
北信がんプロ・コーディネーター、本学がんプロ企画運営委員長
牧野 智恵

1. 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成の概要

文科省は、2017年度から5年間にわたる第3期のがんプロを提案し、そのテーマを「多様な新ニーズへの対応」とした。その期待される成果としては、「がんゲノム医療従事者の育成」「希少がん・小児がんに対応できる医療人材の育成」「ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成」の3つである。

北信がんプロでは、北信4県(長野県、富山県、石川県、福井県)の平成27年の生産人口(15-64歳)が全国平均の平成42年のそれよりも少ない(総務省統計局統計データより)ことから、北信地域を超少子高齢化地域と位置付け、「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」をテーマに掲げた。

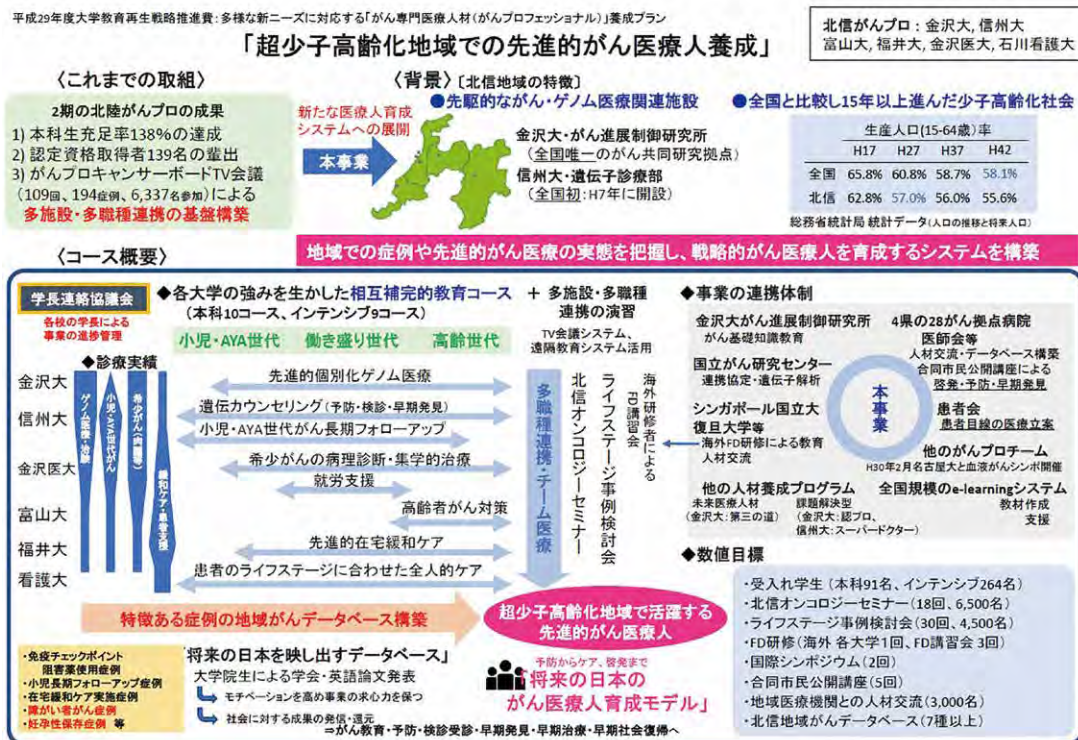


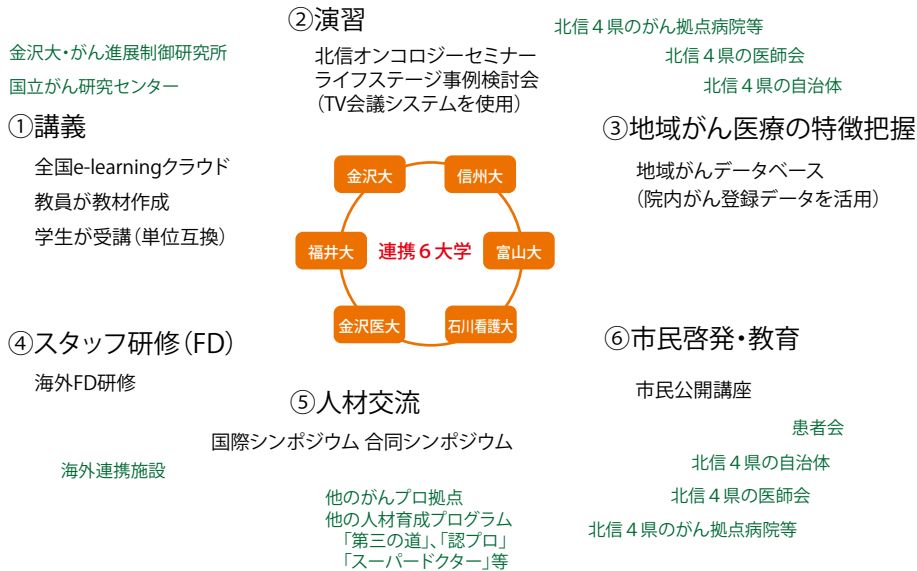
図1 北信がんプロの概要(ポンチ図)

北信がんプロの実施内容として、1) 6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンシブ9)。2) テレビ会議システムを発展させた、北信オンコロジーセミナー、事例検討会。3) スタッフ研修として海外FD研修の実施。4) 他のがんプロ拠点や、人材育成プログラムとも積極的に連携し、国際シンポジウム、合同

シンポジウムの実施。5) 市民啓発、がん教育活動の一環として患者会との連携や、北信4県の自治体、医師会、がん拠点病院と連携し、市民公開講座やシンポジウムの開催などである。本学は主に、大学院教育では、がん看護専門看護師の育成(本科生)と、テレビ会議システムを活かした事例検討会を実施し、がんに関心ある看護師の育成に努める。

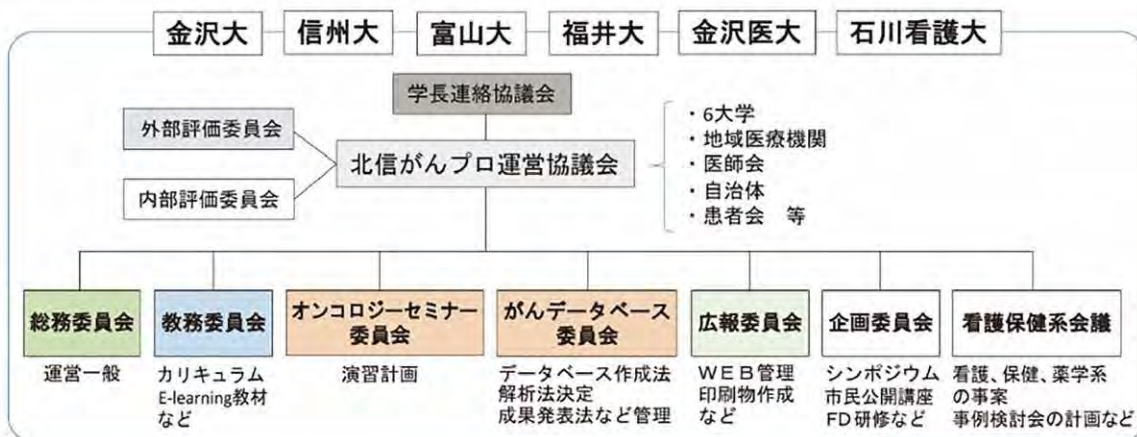


北信がんプロの実施事業



超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)では北信地区の医科系・看護系6大学の連携のもと、下記のように学長連絡協議会、外部評価委員会、内部評価委員会、並びに北信がんプロ運営協議会(6大学、自治体、医師会、がん拠点病院、患者会等)を設置し、事業が当初の目的通り、計画通りに進捗しているかを定期的にチェックしている。

また、6大学間では総務委員会、教務委員会、オンコロジーセミナー委員会など、各種委員会に各委員会の担当教員を配置し、計画的かつ適切な事業運営が進められるよう定期的に委員会を開催している。



本科生としての学び

石川県立看護大学大学院博士前期課程 本科生2年
実践看護学領域・成人看護学分野
北川 寿子

私は、2019年4月に本学大学院のがん看護専門看護師養成コースに進学しました。現在は職場を休職し、学業に専念する中で、改めて自分の看護について見つめ直す日々を過ごしています。

大学院での講義や演習を通して、これまでの看護実践を結びつけながら看護理論などを改めて学ぶ中で、これまで忙しさや時間のなさを理由に、自分の看護を十分に振り返ることが出来ていなかったことに気付きました。

休職し臨床を離れていることによって実践感覚が鈍るのでないかと不安になることもありました。しかし、北信がんプロのライフステージ事例検討会に参加することによって、臨床現場で実際に起きていることや看護について具体的に知る機会になりました。がん看護専門看護師のレクチャーや意見交換の中で、自分自身の物事を捉える視野の狭さや偏りがあることに気付きました。また、自分自身の看護を振り返り意味づけることや言語化し、伝えていくことの大切さについても学びました。

さらに、e-learningを受講することによって、今話題のがんゲノム医療などの知識を自分のベースで得ることが出来たと感じています。

今後は、本科生として学んだことを、今後の看護実践に活かしていきたいと考えています。

本科生としての学び

石川県立看護大学大学院博士前期課程 本科生1年

実践看護学領域・成人看護学分野

天日 更織

私は、臨床の場で様々ながんの患者さんや家族と接してきました。そんな中、終末期のがん患者さんや家族に、その人らしい最期を迎えられるような看護を提供したいという思いは、日々強く思うようになり、今年、本学大学院のがん看護専門看護師養成コースへ進学しました。

現在も金沢市立病院の急性期病棟で勤務し、在職のまま大学院に通う社会人の特別措置と長期履修制度を利用して学んでいます。勤務先が働きながら学ぶことを奨励する制度があり、物心両面で支援して頂き、仕事と学業のオンオフを切り替えながら頑張っています。

大学院では、がん領域の講義全般の他、看護理論や看護倫理などを改めて学び、日々の臨床の場面で自分の看護について見つめ直す機会に繋がります。また、講義で学んだ内容は、現場では大きな糧となり、幅広い視野から患者さんをアセスメントする力となり、実践にそのまま活かせることが何よりの強みと感じています。

北信がんプロのライフステージ事例検討会やCNS関係者によるがん看護事例検討会など、実際の事例を通した他施設との意見交換では新たな気づきを得ることができ、貴重な学びとなっています。

がん看護専門看護師を目指すこれからの3年間は、より充実したものとなるよう、教育や研究に熱心にご指導下さる先生方に感謝し、同期と励まし合い乗り越えていきたいと思っています。

本科生としての学び

石川県立看護大学大学院博士前期課程 本科生1年
実践看護学領域・成人看護学分野
池上 暁

私は、2020年4月に本学大学院のがん看護専門看護師養成コースに進学しました。就業を継続しながら大学院に通っています。これまで自分の実践には限界を感じていました。しかし今回大学院に進学し、臨床での経験を振り返りながら理論を学ぶ中で、多くの気づきを得ました。北信がんプロは、その大学院での学びを実践に落とし込んだり、多様な意見を取り入れながら自分の視野を広げたりする機会と感じています。

私は、ライフステージ事例検討会やCNS関係者によるがん看護事例検討会、オンコロジーセミナー、リンパ浮腫セミナーに参加させていただきました。ライフステージ事例検討会では、毎回他施設の方々の活発な質問や意見から、新たな視点をいただきます。その後のレクチャーもその事例に沿った論文や知識を教えていただき、理論と実践がつながる感覚があります。CNS関係者によるがん看護事例検討会では、CNSの先輩方の困難な事例やその意見交換から、CNSとしての思考の実際を学びました。医師が主体となって運営するオンコロジーセミナーも聴講させていただきました。遺伝・ゲノム医療、膵がんの治療と緩和ケアなど、自分の看護経験のない治療、現在の医療の実際を、医師の視点から聞けることは大変貴重な経験でした。

今後も北信がんプロでの学びを大学院での学習や臨床に活かしながら、能力の向上に努めたいと思います。

**2020年度
本学において超少子高齢化地域での
先進的がん医療人養成（北信がんプロ）にて
企画・実施した内容の報告**

今年度の本学におけるインテンシブコースの成果

大学院実践看護学領域・成人看護学(がん看護)分野 教授
北信がんプロ・コーディネーター、本学がんプロ企画運営委員長
牧野 智恵



今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、各施設で看護師や医師が集まり会議を行うことが禁止されている状況の中、第1回(6月)の「ライフステージ事例検討会」の開催を延期せざるを得なかった。しかし、第1波の感染が収束の方向に向かう中で、事例検討会の実施方法を変更する形で再開することができた。

変更点の一つは、施設での参加者同士の意見交換は中止し、テレビ会議システムでの意見交換としたことである。もう1点はテレビ会議システムのみで

なく、事前の申し込みを行い、誓約書を交わしたものには、YouTubeでの参加もできるようにしたことである。そのことによって、仕事終了直後の看護師や休日の看護師の参加者も増え、1回の参加者数は昨年度より増加した。このライフステージ事例検討会は、インテンシブコースの受講科目として大きな役割があるため、開催できたことをうれしく思う。

北信がんプロでのインテンシブコースは、「がんライフケアコース」と「看護師インテンシブAコース」を実施している。前者は、北陸3県と長野県内の病院に勤務し、がん患者のケアに携わる医療従事者を対象としており、今年は6名からの申し込みがあった。また、後者は、がん看護専門看護師教育課程を修了した者を対象としており、本年度は1名の申し込みがあった。

それぞれのコースの基本となっている科目は、本学が主催している「ライフステージ事例検討会」(45分)と、がん看護専門看護師による「ミニレクチャー」(15分)であり、コロナ禍の状況でも参加できるよう、テレビ会議システムを用いていることが大きな特徴である。毎回、本学の教員、大学院生、がん看護専門看護師、そして医師も参加し、テレビ会議システムの導入してある北信4県の病院の方々ががん患者の事例について意見交換されている。

2018年から、長野県の病院が加わり、30施設がライフステージ事例検討会に参加し、全施設と同時に事例検討会が実施できることとなった。北陸と長野県は、施設が点在しており、また、公共交通機関が不十分ということがあり、遠隔地の病院で働く医療職者が事例検討会に参加ができるようにとの発想で開始した事例検討会であるが、コロナ禍でも実施できることが確認でき、テレビ会議システム、YouTubeを利用することで多くの関係者の参加が可能になり、有効な教育方法となっていることが確認できた。

以下、それぞれのコースの特徴について簡単に紹介したい。

1. 「がんライフケアコース」

昨年度からは、看護師のみならず、薬剤師、医師、理学療法士など多職種が参加できるように事例を工夫し、緩和ケア、がんリハビリ、化学療法・放射線療法などを受ける患者の事例について意見交換をしている。

2. 「がん看護インテンシブAコース」

平成19年度から実施しているコースの一つで、北信がんプロのがん看護本科生（大学院のがん看護専門看護師課程）を修了し、今後がん看護専門看護師の受験をめざしている看護師、または更新予定のがん看護専門看護師を対象としたコースである。

また、9月（参加者22名）にがん看護専門看護師と本コース申請者を対象に、がん看護専門看護師の知識と技術のブラッシュアップと専門看護師の受験に向けた学習のための事例検討会を実施した。毎年、特別コメンテーターを石川県にお呼びしているが、コロナ禍の中、特別コメンテーターや参加者数名リモート参加での実施となった。北里大学病院の近藤まゆみがん看護専門看護師にリモートでの参加をお願いした。このような少人数での事例検討会に参加することによって、日頃、施設のがん看護の向上のためにひとりで悩んでいるがん看護専門看護師も、互いに困っている事例の共有ができ、問題解決能力を高める一助になっているようである。



2020年9月の事例検討会の様子

ライフステージ事例検討会の運営に携わって

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員

松本 智里

ライフステージ事例検討会は、北信4県の施設をテレビ会議システムでつなぎ、施設の垣根を越えて、日頃のがん患者様やそのご家族へのケアについて意見交換することを目的としています。内容は事例検討会と、がん看護専門看護師によるミニレクチャーです。昨年度より、参加施設の制限がなくなったため、他施設・多職種の方から、多角的な意見をいただき、その都度の会で学ぶものや得るものが大きくなっていると感じております。

今年度は未曾有の事態により、「1つの部屋に集まって検討会を開く」ということが大変困難となりました。そこで、ライフステージ事例検討会では、施設ごとの検討の時間を無くし、個人による質疑応答をメインといたしました。また、新たな試みとして、YouTubeによるオンライン参加を取り入れました。当初は3密を避けるための対応策として始めましたが、結果的に、今まで時間や開催施設場所の都合で参加できなかった方にもご参加いただけるようになりました。これまでの会では、平均50名程度の方にオンラインでご参加いただいております。

このような時代に、医療の最前線で尽力なさっている方々と意見交換できる機会を持てますことを大変光栄に思っております。運営の方法を工夫しながら、これからもこの会を継続していけるように尽力してまいります。今後とも皆様のご協力・ご参加をよろしくお願いいたします。



ライフステージ事例検討会に参加して

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員

大江 真吾

ライフステージ事例検討会は、テレビ会議システムを使用し、北信4県の大学を含めた施設をつなぎ、事例を共有、意見交換を行う場となっています。

今年度は終末期のがん患者と家族を支える支援や認知症がん患者への疼痛マネジメントなどの事例が提供されました。私が参加させていただいた検討会では、思春期にある患者への告知に関する事例が提供され、意見交換がされました。子供のがんについて悩み、告知をするかを迷う家族と、がんの告知と患者・家族への支援を考える、非常に難しい事例でした。事例説明後の話し合いでは、参加者がそれぞれの立場、職種をふまえた意見が出され、活発に議論がされていました。その中では、思春期にある患者自身の病気への認識はどうなっているのか、家族への支援をより重視すべきではないかなど色々な視点について話し合われました。正解がない難しい事例でしたが、複数の職種の視点で話し合われた貴重な機会となりました。

また、事例検討会後のミニレクチャーでは、提供された事例に関するトピックスが紹介され、最新の知識が提供されていました。日々の看護実践につながるような学びの多い場になったと思います。

ライフステージ事例検討会に参加して

石川県立看護大学大学院博士前期課程 本科生1年

実践看護学領域・成人看護学分野

池上 暁

ライフステージ事例検討会は、北信4県の連携大学、がん診療連携拠点病院、地域がん診療推進病院をテレビ会議システムでつなぎ、がん患者・家族の事例について、話し合う場となっています。今年度は新型コロナウイルス感染症のため、密を避けるべく施設毎のディスカッションを控える等されていましたが、初めて参加した私が圧倒されるほど、他参加者の方々からは活発な質問や意見交換がなされていました。

今年度の内容は、「小児がん患者へのバッドニュースの告知」「認知症がん患者の疼痛管理」等、臨床ではよくある対応が困難な事例が多く、自分の悩んだ経験も思い出されました。事例検討会の最中は「これはどうしたらよいのだろう」と考え込むことも多くありました。しかし、他参加者の方々の思考に触れたり、自分の経験と照らし合わせたりすると、徐々に方向性が見えてきます。その後のがん看護専門看護師によるレクチャーにおいて、事例のテーマに沿った論文やエビデンスに基づいた知識の説明を聞き、それらを基に考えてみると、その方向性が少しずつ明確になっていくように感じています。

複雑で困難な現象であっても、理論や知識を基に丁寧にそれらを捉えて実践につなげていくことで、必ず見えてくるものがあることを、ライフステージ事例検討会を通して学びました。今後もこの機会を大切に、自分の看護実践の向上を目指して精進したいと思います。

ライフステージ事例検討会 参加者アンケート集計結果

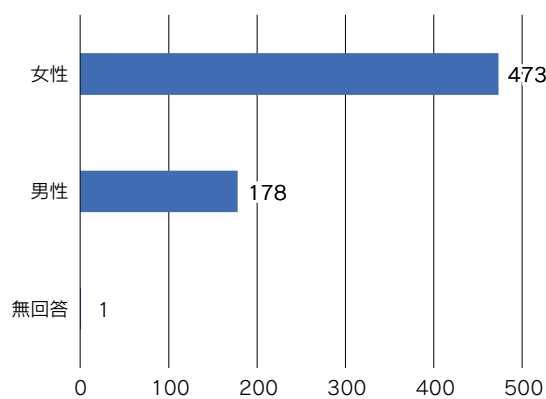
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

担当 岡山 のぞみ

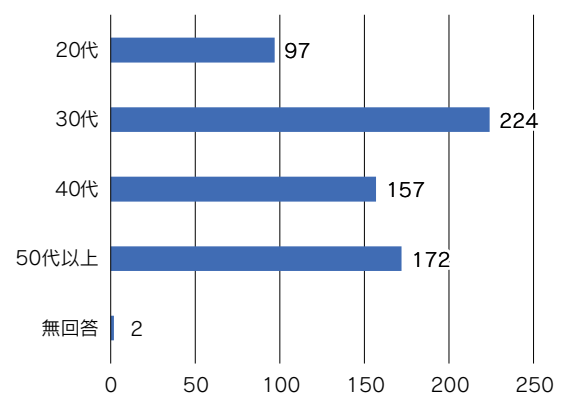
第1回から第6回までのライフステージ事例検討会にて782名参加し、アンケート回収者数は652名(石川県:329名、富山県:125名、福井県:90名、長野県:105名、無回答:3名)、回収率83.4%であった。

1. 参加者について (n=652)

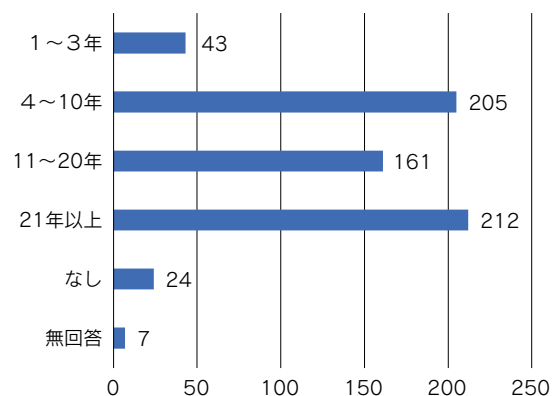
1) 性別



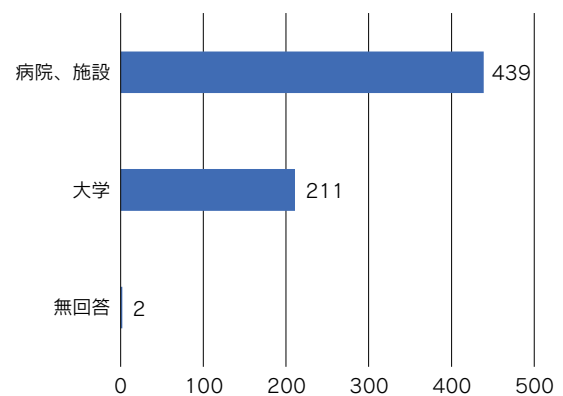
2) 年齢



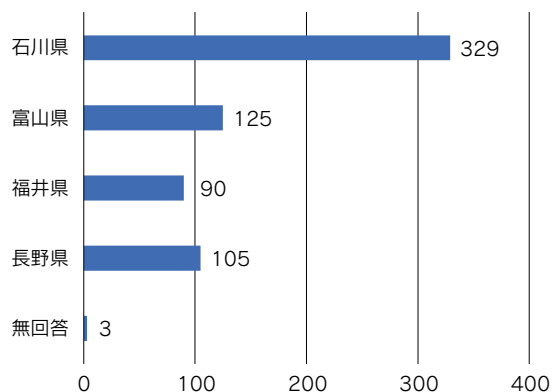
3) 臨床経験年数



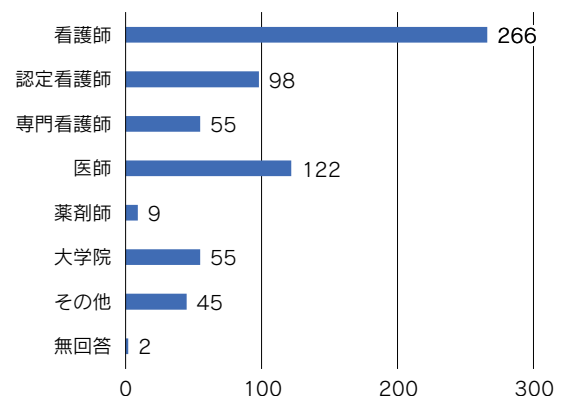
4) 勤務施設



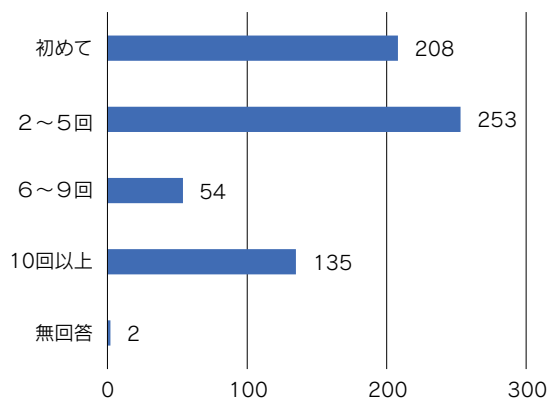
5) 勤務地



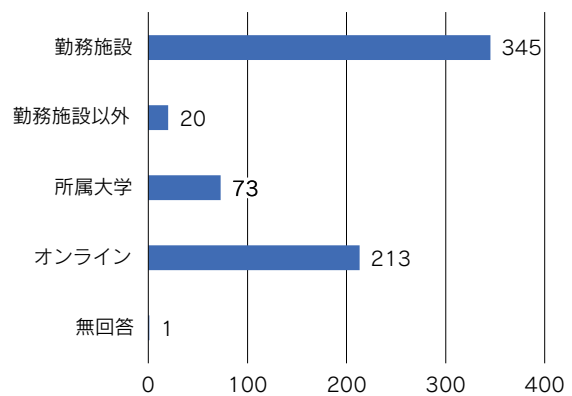
6) 保有資格



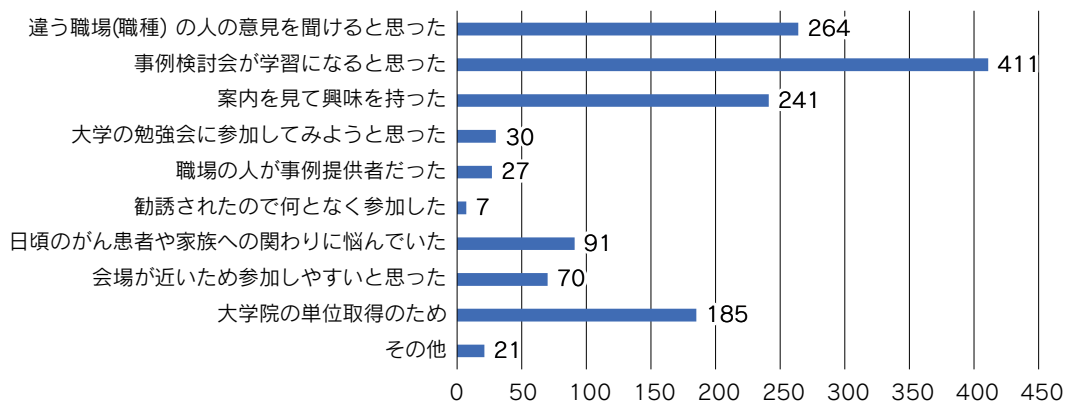
7) 参加回数



8) 参加会場

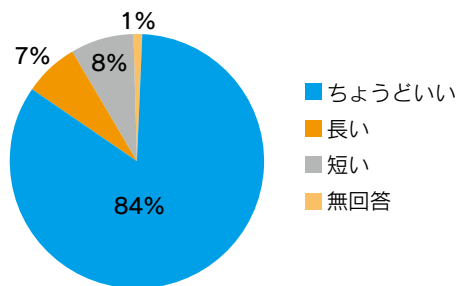


9) 事例検討会の参加動機（複数回答可）

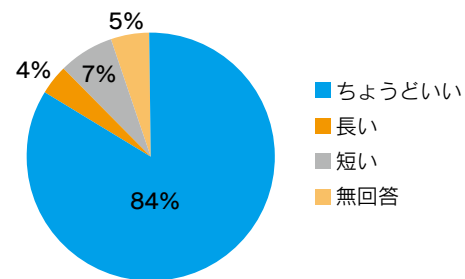


2. 事例検討会の内容について (n = 652)

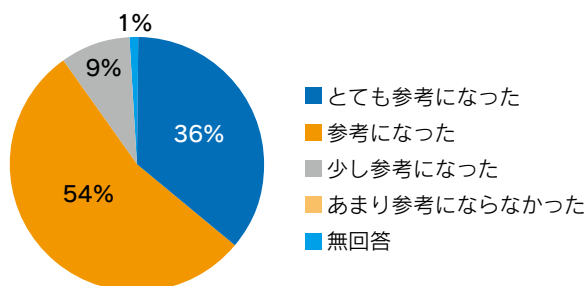
1) 事例検討会の所要時間



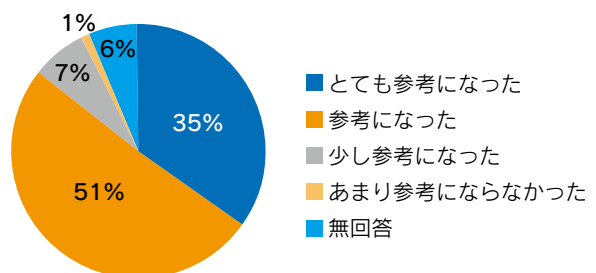
2) ミニレクチャーの所要時間



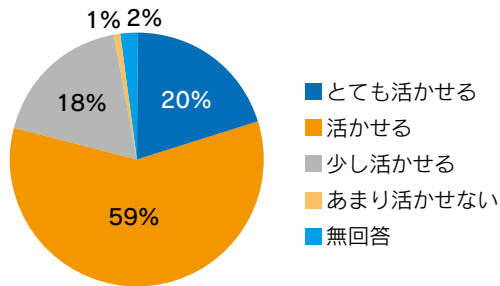
3) 事例検討会の内容



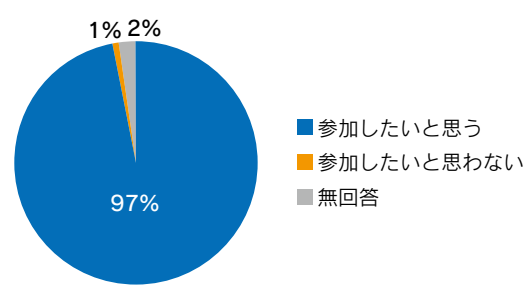
4) ミニレクチャーの内容



5) 今後の看護実践への活用



6) 今後の参加の希望の有無



3. 自由回答への記載内容 ()内は人数を示す

事例検討会の意見・感想

- ・大変参考になった (15)
- ・他施設、多職種の方の意見や話を聞くことができ、勉強になった (6)
- ・今後の実践で活用していきたい (6)
- ・似たような事例を経験していたので振り返りができてよかった (3)
- ・多職種との連携の大切さを感じた (2)
- ・多職種を交えての意見交換は患者さんに接する上で、大変参考になる。
円滑なコミュニケーションのためにも、定期的に事例検討会を継続していただきたいと思う。
- ・現場の看護師さんの生の声を聴ける貴重な機会だと思う。
- ・今回初めてライフステージ検討会に参加したが、日常診療では経験できない貴重な症例を知ることができてよかった。また、症例内容に沿ったミニレクチャーにて、症例・知識の確認をすることができたため、とても勉強になった。
- ・自施設はがん拠点病院でもなく、このような事例検討会が開催されることはないため、とても新鮮に感じ、看護師ってやはりいいなと思った。
- ・現在進行中の事例は、今後の経過も教えていただけるとありがたいと思う。
- ・事例と関連するミニレクチャーがあるので、より確かな根拠に基づくケアに結びつくため、今後に活かしやすい。初めて参加したが今後も参加したい。
- ・普段、がん診療に関わっていないが、事例検討→ミニレクチャーの構成であったため理解しやすかった。内容によっては難しいと思うが、レクチャー内容にデータの要素もあると尚良いと感じた。
- ・学生なので、検討会で臨床の考えを勉強できるのはとても珍しくありがたいと思う。
- ・日々顔を合わせて話し合う機会があれば、スムーズに出来ることも多いように思った。事例検討など、振り返りをする機会が普段からあれば、様々なアイデアや対応が出来るようになるのかなと感じた。

事例検討会の運営について

- ・自宅からオンライン参加が可能になり、参加しやすくなった (8)
- ・育児をしながらオンラインで参加でき、大変ありがたかった (2)
- ・オンラインでも十分に理解できた (2)

- ・オンラインでも質問できるといいなと思った (2)
- ・ディスカッションがない検討会なので、事例提示の準備や方法について十分検討が必要だと思った。
- ・時間が限られているので、機器テストは事前にすませていただき、スムーズに展開できるようにしてほしい。

今後期待する事例

- ・緩和ケアにおけるチーム医療の役割を、認定看護師や専門看護師、緩和ケアチームだけではなく、病棟や外来、在宅の看護師たちと、どのような役割と共同で実践へと結びつけたか、形の見える事例
- ・コロナ禍における緩和ケアに関する事例
- ・独居で高次機能障害のある事例への取り組み
- ・医師は積極的治療を続けるが患者、家族は望んでいない場合の看護師の関わり方
- ・せん妄に対する他施設での取り組み
- ・家事、仕事を続けながら治療をうける女性の支援
- ・バッドニュースを伝えられた後の患者へのケア内容や気を付けている点
- ・終末期の迎え方、伝え方、支援方法
- ・鎮静、鎮痛が数週間を超えてきてスタッフの気持ちも辛くなってくるような事例
- ・「緩和ケア」という単語そのものを嫌がる患者やその家族に対するアプローチ
- ・AYA世代の白血病患者 (特に小さな子供を持つ患者) への関わりについての事例
- ・告知をしていない患者の終末期看護
- ・ターミナル浮腫の対応方法
- ・ターミナル期のがん患者さん、その家族の事例

2020年度 ライフステージ事例検討会 参加者人数

回数 開催日時	担当	参加大学・病院名	看護師 (医療機関)	医師/ 歯科医師	薬剤師	大学院生	その他	計
第1回 2020.7.7(火) 17:45～	○	金沢大学	15	9	0	14	その他 1 放射線技師 3	42
		福井大学	8	2	0	0	臨床検査技師 1	11
		石川県立看護大学	6	0	0	3		9
		信州大学	5	1	0	2		8
		恵寿総合病院	2	0	0	0		2
		石川県済生会金沢病院	0	0	0	0		0
		石川県立中央病院	5	0	0	0		5
		金沢市立病院	0	0	0	0		0
		小松市民病院	11	0	0	0		11
		浅ノ川総合病院	0	0	0	0		0
		富山県立中央病院	0	0	0	0		0
		高岡市民病院	0	0	0	0		0
		市立砺波総合病院	7	1	0	0		8
		富山県済生会富山病院	2	0	0	0		2
		金沢医科大学氷見市民病院	6	0	0	0	MSW 3	9
		厚生連高岡病院	0	0	0	0		0
		富山労災病院	0	0	0	0		0
		飯田市立病院	2	0	0	0		2
		諏訪赤十字病院	5	0	0	0	ケアマネジャー 3	8
		長野赤十字病院	0	0	0	0		0
		オンライン	33	12	0	0	臨床検査技師 1	46
		参加合計	107	25	0	19	0 1 11	163
第2回 2020.8.4(火) 17:45～	○	金沢大学	1	12	2	4	その他 4 放射線技師 1	24
		福井大学	10	1	0	0		11
		富山大学	1	0	0	0		1
		金沢医科大学	1	1	0	0		2
		石川県立看護大学	9	0	0	3		12
		信州大学	5	0	0	0		5
		金沢赤十字病院	0	0	0	0		0
		石川県立中央病院	7	0	0	0		7
		公立能登総合病院	0	0	0	0		0
		国立病院機構金沢医療センター	5	1	0	0		6
		公立松任石川中央病院	10	0	0	0		10
		富山県立中央病院	2	0	0	0		2
		富山市民病院	0	0	0	0		0
		富山赤十字病院	0	0	0	0		0
		富山県済生会富山病院	5	0	0	0		5
		富山県済生会高岡病院	0	0	0	0		0
		厚生連高岡病院	0	0	0	0		0
		黒部市民病院	6	1	0	0		7
		諏訪赤十字病院	2	0	0	0		2
		飯田市立病院	0	0	0	0		0
		オンライン	41	11	1	3	その他 3 臨床検査技師 1	60
		参加者計	105	27	3	10	0 7 2	154
第3回 2020.9.1(火) 17:45～	○	金沢大学	3	14	2	4	その他 5	28
		富山大学	0	0	0	0		0
		福井大学	4	0	0	0		4
		金沢医科大学	4	0	0	0		4
		石川県立看護大学	6	0	0	0		6
		信州大学	3	0	0	1		4
		金沢赤十字病院	0	0	0	0		0
		石川県済生会金沢病院	0	0	0	0		0
		金沢市立病院	2	0	0	0		2
		小松市民病院	0	0	0	0		0
		石川県立中央病院	5	0	0	0		5
		公立松任石川中央病院	1	0	0	0	放射線技師 2 事務 1	4
		浅ノ川総合病院	1	0	0	0		1
		富山県立中央病院	5	0	0	0		5
		高岡市民病院	0	0	0	0		0
		富山県済生会富山病院	2	0	0	0		2
		金沢医科大学氷見市民病院	4	0	0	0		4
		黒部市民病院	5	0	0	0	放射線技師 3 作業療法士 1	9
		富山労災病院	0	0	0	0		0
		飯田市立病院	3	0	0	0		3
		諏訪赤十字病院	0	0	0	0		0
		オンライン	23	15	3	3	放射線技師 2 その他 1	47
		参加者計	71	29	5	8	0 7 8	128

回数 開催日時	担当	参加大学・病院名	看護師 (医療機関)	医師/ 歯科医師	薬剤師	大学院生	その他			計
第4回 2020.10.6(火) 17:45～		金沢大学	1	5	0	0				6
		富山大学	0	0	0	0				0
	○	福井大学	4	0	0	0				4
		石川県立看護大学	6	0	0	0				6
		信州大学	2	1	0	0				3
		恵寿総合病院	2	0	0	0				2
		国立病院機構金沢医療センター	0	0	0	0				0
		小松市民病院	3	0	0	0				3
		公立松任石川中央病院	2	0	0	0		作業療法士 1	その他 1	4
		石川県立中央病院	8	0	0	0				8
		浅ノ川総合病院	0	0	0	0				0
		富山県立中央病院	2	0	0	0				2
		市立砺波総合病院	0	0	0	0				0
		富山県済生会高岡病院	4	0	0	0				4
		金沢医科大学氷見市民病院	6	0	0	0				6
		富山労災病院	0	0	0	0				0
		諏訪赤十字病院	0	0	0	0				0
		飯田市立病院	0	0	0	0				0
		長野赤十字病院	0	0	0	0				0
		オンライン	25	27	1	2	放射線技師 2	理学療法士 1	その他 1	59
		参加者計	65	33	1	2	2	2	2	107
第5回 2019.11.10(火) 17:45～		金沢大学	0	3	0	0				3
	○	富山大学	6	0	0	0				6
		福井大学	2	0	0	0				2
		石川県立看護大学	7	0	0	0				7
		信州大学	5	0	0	0			管理栄養士 1	6
		金沢赤十字病院	0	0	0	0				0
		公立能登総合病院	0	0	0	0				0
		石川県済生会金沢病院	0	0	0	0				0
		金沢市立病院	2	0	0	0				2
		石川県立中央病院	5	0	0	0				5
		浅ノ川総合病院	0	0	0	0				0
		富山市民病院	3	0	0	0				3
		富山県立中央病院	3	0	0	0			教員 1	4
		富山赤十字病院	0	0	0	0				0
		金沢医科大学氷見市民病院	0	0	0	0				0
		黒部市民病院	5	0	0	0			心理士 1	6
		富山労災病院	0	0	0	0				0
		諏訪赤十字病院	0	0	0	0				0
		長野赤十字病院	4	0	0	0				4
		福井県立病院	4	0	0	0			栄養士 1	5
		オンライン	19	19	0	17	教員 5	心理士 2	その他 5	67
		参加者計	65	22	0	17	5	2	9	120
第6回 2020.12.1(火) 17:45～		金沢大学	1	1	0	0				2
		福井大学	1	0	0	0				1
		金沢医科大学	0	0	0	0				0
		石川県立看護大学	7	0	0	0				7
		信州大学	5	0	0	1				6
		恵寿総合病院	2	0	0	0				2
		石川県済生会金沢病院	0	0	0	0				0
		国立病院機構金沢医療センター	0	0	0	0				0
		金沢市立病院	4	0	0	0				4
		石川県立中央病院	4	0	0	0				4
		公立松任石川中央病院	5	0	0	0		理学療法士 1	作業療法士 1	7
	○	富山県立中央病院	5	0	0	0				5
		高岡市民病院	0	0	0	0				0
		市立砺波総合病院	0	0	0	0				0
		富山県済生会富山病院	3	0	0	0				3
		富山県済生会高岡病院	0	0	0	0				0
		厚生連高岡病院	0	0	0	0				0
		富山赤十字病院	2	0	0	0				2
		黒部市民病院	4	0	0	0				4
		諏訪赤十字病院	6	0	0	0				6
		飯田市立病院	0	0	0	0				0
		福井県立病院	12	0	1	0			理学療法士 1	14
		オンライン	12	25	0	4	理学療法士 1		放射線技師 1	43
		参加者計	73	26	1	5	0	2	3	110

2020年度 石川県立看護大学
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

テレビ会議システムを利用した ライフステージ事例検討会

多職種とともに日頃のがん患者への関わりをふり返りましょう

北信4県のテレビ会議システムが設置されている施設を利用して行います。
施設の垣根を越えて、日頃のがん患者様やご家族へのケアについて意見交換しましょう。

◆開催日程（9回予定）

2020年 7月7日(火) 8月4日(火) 9月1日(火)
10月6日(火) 11月10日(火) 12月1日(火)
2021年 1月19日(火) 2月2日(火) 3月2日(火)

◆開催時間 17時45分～19時15分
(事例検討：60分、ミニレクチャー：30分)

◆対象 看護師、医療従事者、医療関係の学生、
がん看護専門看護師申請予定者

◆会場 北信がんプロのテレビ会議システムが
設置されている施設
※開催予定施設につきましては、裏面をご覧ください。

◆参加費 無料

◆内容 1) 事例検討：外来化学療法、在宅の患者支援
倫理調整、家族看護、緩和ケアなど
2) ミニレクチャー：OCNSの他、医師や薬剤師等がミニレクチャーを担当します

お近くの開催予定会場からの
参加をお待ちしております！
詳細はホームページをご覧ください。

石川県立看護大学
<http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>
北信がんプロ.com
<http://www.gan-pro.net/>



◆アドバイザー◆

・牧野智恵：石川県立看護大学 成人看護学 教授（がん看護専攻）
・各施設のがん看護専門看護師（OCNS）

◆参加申込先 外部施設から参加される方は、前日までに裏面の開催予定施設まで
ご連絡下さい。

◆お問い合わせ先 石川県公立大学法人 石川県立看護大学 総務課
〒929-1210 石川県かほく市学園台1-1 TEL (076)281-8300 FAX (076)281-8319

企画・運営 石川県立看護大学

主催：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）
（石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業）



2020年度 開催施設 及び 年間開催スケジュール

※外部から参加される方は前日までに開催予定施設の担当者までご連絡下さい。
 なお、4月・5月・6月は開催しません。

	施設名	テレビ会議 システム設置室	7月7日	8月4日	9月1日	10月6日	11月10日	12月1日	1月19日	2月2日	3月2日
がんプロ 主催 大学	金沢大学	医学類教育棟地階大多目的室、or 附属病院外来診療棟4階CPDセンター	○※佐伯	○	○	○	○	○	○	○	○※山瀬
	富山大学	看護学科研究棟5階 成人看護学研究室1		○	○	○	○※樋口		○	○	○
	福井大学	附属病院2階がんセンターボード室	○	○※高野	○※玉村	○※松本	○	○	○	○	○
	金沢医科大学	基礎研究棟3階 大学院セミナー室		○	○			○	○※上埜		
	石川県立看護大学	小講義室2	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	信州大学	医学部基礎5階第2会議室	○	○	○	○	○	○	○	○	○
石川県	金沢赤十字病院	5階会議室		○	○		○		○	○	
	公立能登総合病院	第4会議室		○			○		○	○	○
	恵寿総合病院	3病棟6階 会議室	○			○		○		○	
	石川県済生会金沢病院	討議室	○		○		○	○	○		○
	国立病院機構 金沢医療センター	地域医療研修センター 第1研修室		○		○		○	○		○
	金沢市立病院	東館3階教育研修室	○		○		○	○		○	
	小松市民病院	南館4階第4研修室	○		○	○				○	○
	公立松任石川中央病院	地域医療連携棟会議室		○	○	○			○		○
	石川県立中央病院	3階会議室2		○		○	○	○	○		
	浅ノ川総合病院	本館3階研究室	○		○	○	○			○	
富山県	富山県立中央病院	中央診療棟3階 32会議室	○	○	○	○	○	○※時山	○	○	○
	富山市民病院	地域医療研修センター		○			○		○	○	
	高岡市民病院	講義室	○		○			○	○		○
	市立砺波総合病院	医局棟5階 カンファレンス室	○			○		○		○	○
	富山赤十字病院	3階 講義室		○			○		○	○※村上	
	富山県済生会富山病院	消化器内視鏡センター カンファレンス室	○	○	○			○			○
	富山県済生会高岡病院	8階 講義室		○		○		○	○		
	金沢医科大学 氷見市民病院	教育研修棟 2F 図書室	○		○	○	○			○	○
	厚生連高岡病院	がん相談支援室	○	○				○			○
	黒部市民病院	3階会議室		○	○		○	○	○	○	
富山労災病院	講堂	○		○	○	○			○	○	
長野県	諏訪赤十字病院	管理棟会議室	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	飯田市立病院	3階会議室		○		○		○	○		
	長野赤十字病院	第二研修ホール 小会議室	○			○	○			○	
ミニレクチャー担当者			佐伯	高野	玉村	松本	樋口	時山	上埜	村上	山瀬

【○：ライフステージ看護事例検討会開催予定施設 ※：事例担当予定施設】

2020年度 看護実践セミナー 臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編 を開催して

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員

今方 裕子

1. 看護実践セミナーの目的

リンパ浮腫は、がん治療によるリンパ節郭清や、放射線治療、化学療法といったがん治療によって発生する。本セミナーは、リンパ浮腫に関する知識をもち、教育やケアに携われるように、リンパ浮腫の予防的介入から終末期まで様々な段階でのリンパ浮腫のケアを理解する目的で開催している。今年度は、がん看護専門看護師、リンパ浮腫セラピストとして活躍している高地弥里さん、時山麻美さんのお二人を講師としてお招きしセミナーを開催した。以下の目標のもと、基本的な知識から実践につながる内容、演習まで学ぶ機会とした。

2. セミナーの概要とスケジュール

講師：石川県済生会金沢病院 がん看護専門看護師

日本医療リンパドレナージ 中級セラピスト 高地 弥里先生

富山県立中央病院 がん看護専門看護師

日本医療リンパドレナージ 中級セラピスト 時山 麻美先生

テーマ：臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編

日時：令和2年9月5日（土） 9:30～16:00

場所：石川県立看護大学 2階 成人・老年看護学実習室

<セミナーの目標>

- 1) がん治療に関連して発生するリンパ浮腫の機序と病態生理について理解する
- 2) リンパ浮腫のアセスメント方法を理解する
- 3) リンパ浮腫に対するケアの方法および評価方法について理解する



3. 結果

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会場参加人数を制限しながら、より多くの方に参加いただけるようオンラインでも参加者を募り、会場参加とオンライン参加のハイブリット形式で開催した。当日は病院看護師、訪問看護師、理学療法士等様々な場で活動している計78名に参加いただいた。時山CNSには基本的な事柄を分かりやすく丁寧に解説いただき、高地CNSにはセルフリンパドレナージュのデモンストレーションなどの実演をしていただいた。講師の方々の講義や手技に多くを学ぼうと熱いまなざしが注がれ、参加者からより実践的な質問があがった。

セミナー終了後のアンケートには58名から回答を得た。セミナー受講前後の理解・習得度についての自己評価はどの項目も高くなっていた。一方で、デモンストレーション実演について、オンライン配信では詳細が一部伝わりづらいというご意見があった。今後も臨床でより役立つ研修となるよう、次年度に向けて講師の方々とオンライン配信や研修内容について検討していきたい。



臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編

富山県立中央病院 がん看護専門看護師

時山 麻美

私は、2012年に日本医療リンパドレナージ協会認定セラピストの資格を取得し、本学大学院を修了後2016年にがん看護専門看護師に認定されました。本研修に関して3年前から講師として協力させていただいています。今年度は新型コロナウイルス禍での研修ということで、感染拡大防止のため、ZOOMによるオンラインでの講義と会場での講義を初めて同時に行ないました。オンライン研修は、自宅でもどこからでも参加が可能であり、気軽に受講しやすいことが利点です。一方今後の課題として、一方的な講義となりやすく双方向性の研修とするために工夫が必要であること、通信の問題、カメラと画面の切り替え、オンラインと会場の参加者が同時に同じ画面を共有できる講義方法など、様々な問題点がみえてきました。

今年度は、リンパ浮腫指導管理料の算定内容に沿ったリンパ浮腫の基本的な知識、浮腫の鑑別、アセスメントするための視点、セルフケアに焦点をあて、現場の看護師が自信をもってケアが行えるような研修内容としました。今回特に訪問看護師のオンラインでの参加が多く、在宅療養する方へのリンパ浮腫のケアのニーズが年々高まっており、今後も受講生のニーズに沿った研修内容を検討し企画していく必要があります。

最後に、このような貴重な機会をいただきました石川県立看護大学の牧野智恵先生はじめ教員の皆様に心から感謝申し上げます。



臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編 に参加して

石川県立看護大学大学院博士前期課程1年

実践看護学領域・成人看護学分野

天日 更織

臨床で行なうリンパ浮腫のケア～基礎編～は、会場参加人数を減らしWEB参加との両立という形で開催されました。私は、感染対策が取られた会場で参加しました。

がん治療に関連したリンパ浮腫は、浮腫の発症に伴い日常生活に支障をきたし、さらに重症化することで感染症などのリスクも高まるため、早期からのリンパ浮腫予防のための患者への指導が重要となります。基礎編では、リンパ浮腫の発症機序から、病態生理、リンパ浮腫のアセスメント方法、さらにリンパ浮腫に対するケアの方法や評価方法について学びました。また、体幹のリンパ液の流れについて学習した上で、用手的リンパドレナージの手法について実技を通して演習しました。

私は急性期外科病棟で勤務しており、臨床の場面でも、乳がんの術後何年も経過しリンパ浮腫が出現、腕を腫らしている患者さんに接する機会があります。リンパの流れを良くするためのマッサージやサポーターの必要性についての知識はあったものの、具体的な指導やマッサージは行うことが出来ませんでした。しかし、今回の研修を通し、リンパ浮腫予防としてドレナージの必要性、セルフドレナージの基本手技を学ぶことができたので、これからはこの知識を活かし術後の退院指導の一部として積極的に取り入れていきたいと思えます。

石川県立看護大学
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

2020年度 看護実践セミナー

臨床で行なう リンパ浮腫のケア ～基礎編～

参加費
無料

2020年 **9月5日(土)**

9:30～16:00 (受付 9:00～)

本研修は修了証を発行します

午前講義 | リンパ浮腫の基礎知識
午後演習 | リンパ浮腫ケアの実際

定員

会場での参加 **30名**
オンラインでの参加 **80名** (※1)
定員になり次第締切とさせていただきます。

持ち物

昼食・内履き
半袖・半ズボン
(午後の演習で使用します)

講師

石川県済生会金沢病院 がん看護専門看護師 **高地 弥里 先生**
富山県立中央病院 がん看護専門看護師 **時山 麻美 先生**

会場

石川県公立大学法人 **石川県立看護大学**
教育研究棟 2階 成人・老年看護学実習室

新型コロナウイルス感染症対策として、3密を回避すべく「会場での参加」と「オンラインでの参加」を募ります。
会場では消毒・換気の実施、一人ひとりの間隔を2m以上あけ、少しでも安全な会場運営を進めて参ります。

※1 「オンラインでの参加」はWeb会議サービス「ZOOM」を利用して、
ご自宅のPCやスマートフォンからご参加いただけます。

申込QRコード



お申込み方法に
ついては裏面を
ご覧ください。

申し込み締め切り 2020年 **8月21日(金)**

主催 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業)



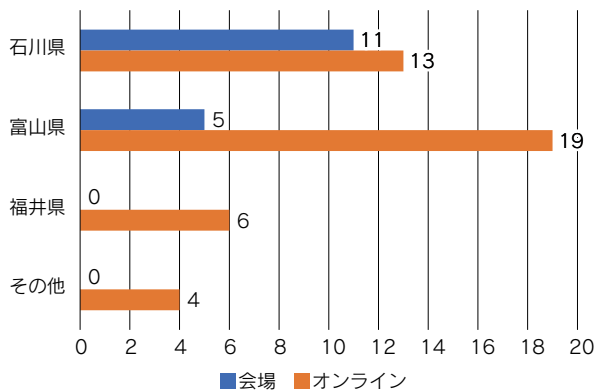
臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編 参加者アンケート集計結果

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

担当 岡山 のぞみ

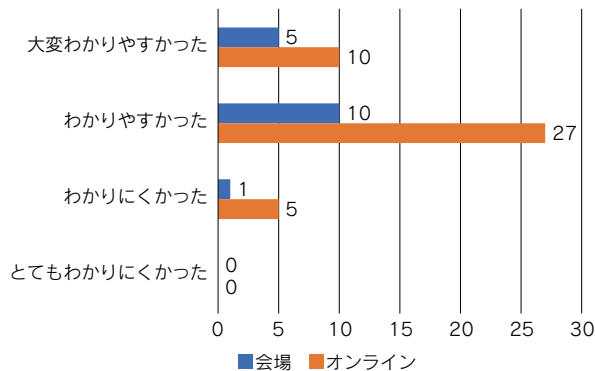
参加者は78名（会場16名、オンライン62名）、アンケート回収者は58名（回収率74.4%）であった。

1. 参加者の居住地区（会場n=16、オンラインn=42）

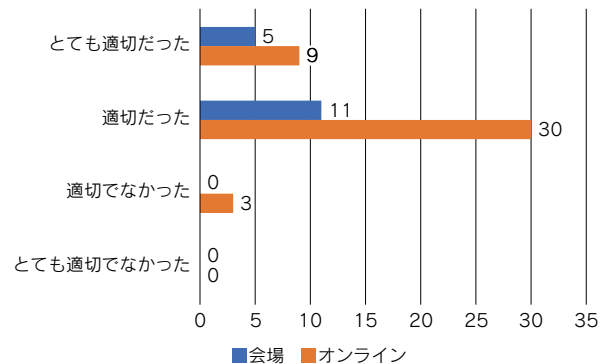


2. セミナーの内容等について（会場n=16、オンラインn=42）

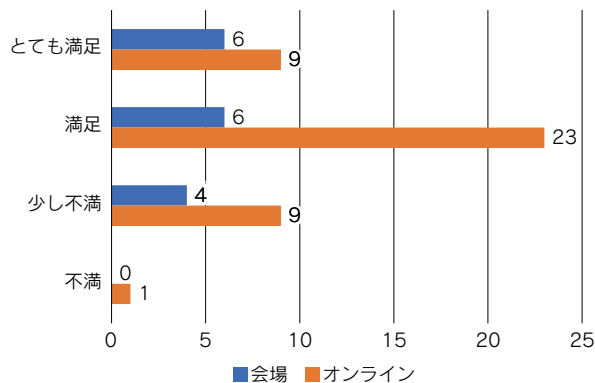
1) セミナーの内容



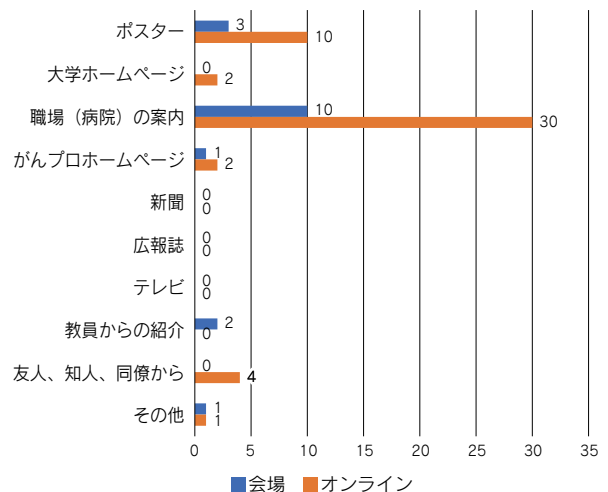
2) セミナーの所用時間



3) セミナーの満足度



4) 情報源（複数回答可）



3. 受講前後の自己評価 (会場 n = 16、オンライン n = 42)

参加者に各項目の理解度について4段階で自己評価をしてもらった。

セミナー受講前

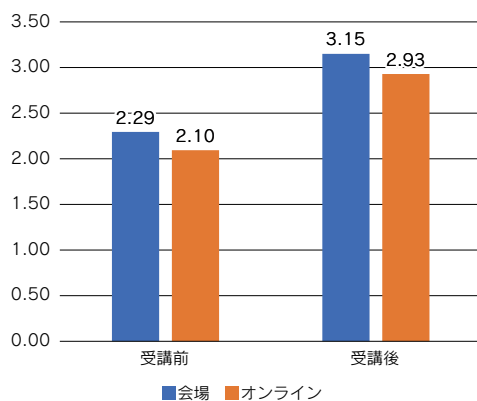
よく知っていた：4点、まあまあ知っていた：3点、少し知っていた：2点、全く知らなかった：1点

セミナー受講後

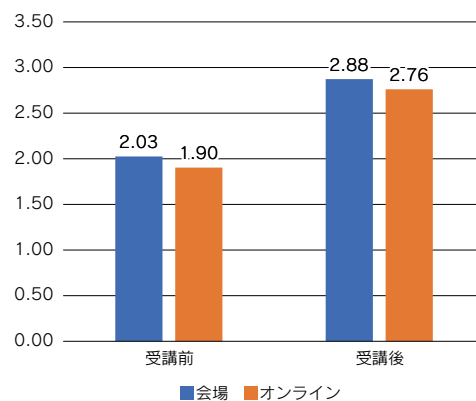
十分習得できた：4点、まあまあ習得できた：3点、少し習得できた：2点、習得できなかった：1点

セミナー受講前後の自己評価の平均点を以下のグラフに示した。どの項目も受講後に評価が上がっていた。

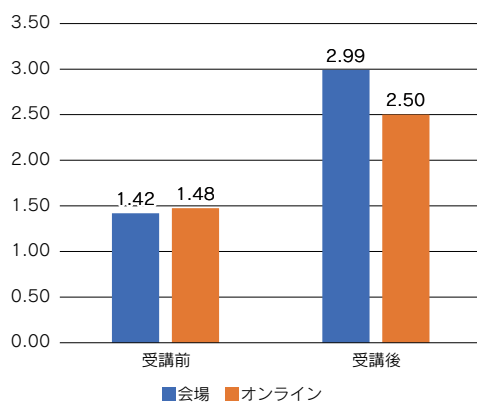
1) 機序・病態生理



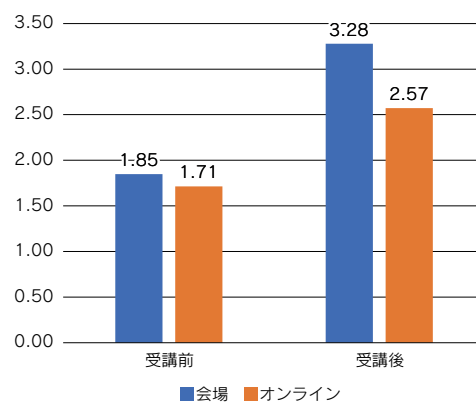
2) アセスメント方法



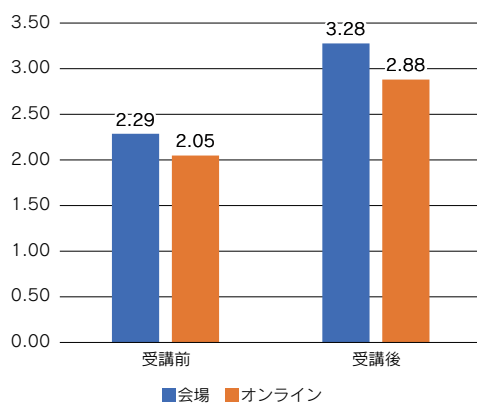
3) 診療報酬と指導内容



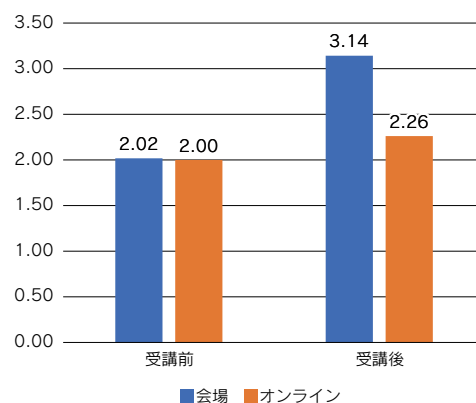
4) 複合的理学療法



5) リンパ浮腫予防

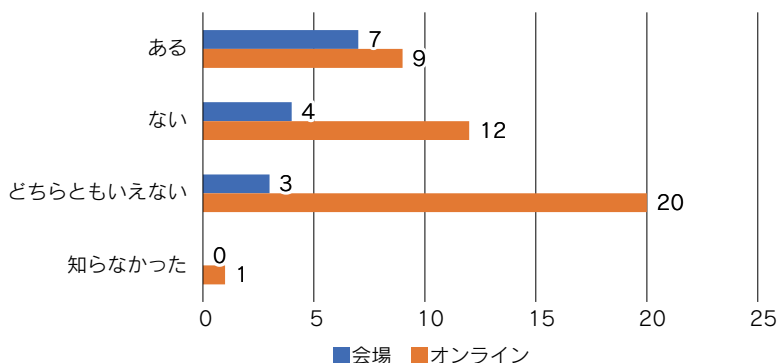


6) 合併症と対処法

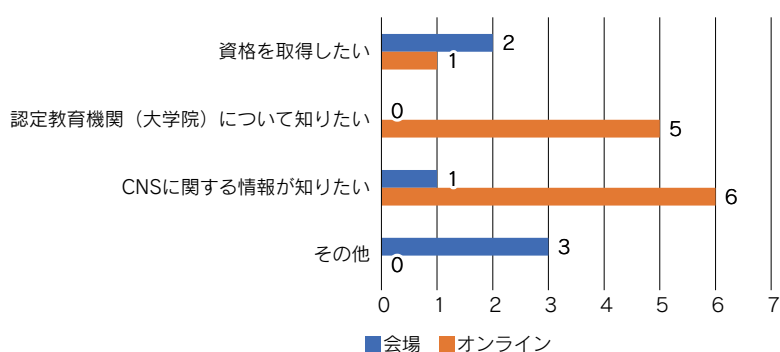


4. がん看護専門看護師について（会場 n = 16、オンライン n = 42）

1) がん看護専門看護師への興味



2) がん看護専門看護師の興味の内容



5. セミナー参加理由（自由回答：複数回答）（ ）内は人数を示す

- ・リンパ浮腫のケアを学び、臨床に活かしたい（17名）
- ・リンパ浮腫への興味・関心があった（9名）
- ・自己啓発のため（3名）
- ・実際に実技をみて学びたかったため（3名）
- ・普段から浮腫のある患者さんと接する機会があるため（9名）
- ・オンラインで参加が出来るため（1名）
- ・今後医療リンパドレナージセラピストの資格を取得したいと考えているため（1名）

6. セミナーへの感想・意見（自由回答：複数回答）（ ）内は人数を示す

- ・リンパドレナージの実技が分かりにくかった、見にくかった（6名）
- ・実技はモデルや模型を使った方が分かりやすいのではないかと思った（2名）
- ・実技、マッサージの時間が短かった（3名）
- ・会場参加にして実技を実際に見れて良かった（1名）
- ・オンラインで参加することができて良かった（11名）
- ・オンラインでは伝わりづらい場面がいくつかあった（13名）
- ・オンラインのチャットの声を聴いてほしかった（2名）
- ・午後の講演が分かりづらく、残念だった（8名）
- ・オンライン参加者には、午後の研修の実演を動画配信してほしい（1名）

7. 今後希望する研修内容（自由回答：複数回答）

- ・緩和ケア（4名）
- ・臨床で実践できるケア
- ・腹水ケア
- ・ACP
- ・遺伝性疾患ケア
- ・終末期の方のリハビリテーション
- ・牧野先生の講義が聞きたい
- ・理論と実践の統合について
- ・リンパ浮腫以外の浮腫のケア
- ・がん化学療法
- ・分子標的薬と看護
- ・一般病棟でのがん患者の看取り対応
- ・がん末期に使用する鎮痛薬、鎮静薬など
- ・リンパ浮腫の方へのリハビリ指導の実際
- ・最新のオピオイド情報

2020年度 看護実践セミナー 臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編 を開催して

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員

桶作 梢

1. 看護実践セミナーの目的

臨床で行なうリンパ浮腫のケア～アドバンス編～は、基礎編を修了した方々を対象に、基礎編で学んだ知識と技術を活用し臨床で実践していただくためのセミナーである。事例検討・ロールプレイと実技を実践する参加型の研修であり、参加者全員ががん看護CNSやセラピストからの指導を直接受け取ることができるように定員は少人数としている。今年度は基礎編に引き続き高地弥里さん、リンパ浮腫セラピストとして活躍している山岸愛さんのお二人を講師としてお招きしセミナーを開催した。

2. セミナーの概要とスケジュール

講師：石川県済生会金沢病院 がん看護専門看護師

日本医療リンパドレナージ 中級セラピスト 高地 弥里先生

石川県済生会金沢病院 看護師

日本医療リンパドレナージ 上級セラピスト 山岸 愛先生

テーマ：臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編

日時：令和2年10月3日（土） 9:00～13:00

場所：石川県立看護大学 2階 成人・老年看護学実習室



3. 結果

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、募集人数を縮小し感染対策を実施して開催した。当日は北陸3県から定員の10名に参加いただいた。

前半はリンパ浮腫を発症した女性の事例を用い、アセスメントと指導内容についてのグループワークと発表を行った。また、リンパ浮腫発症のため相談を受ける場面を想定し、精神的ケア、身体状況のアセスメント、セルフマッサージ指導のロールプレイを行った。参加者は看護師役、患者役、観察役をそれぞれ体験した。

後半は講師によるロールプレイの模範例を示した後に、終末期患者への下肢・腹水マッサージの演習を行った。参加者は講師から直接指導を受けながら患者役と看護師役の両者を体験し、患者としてマッサージを受ける感覚を肌で感じ取りつつマッサージ方法やポイントを熱心に学んでいた。講師への質問も多く、技術を習得し臨床で活かそうという姿勢を感じた。

セミナー終了後のアンケートには参加者10名全員からの回答を得た。セミナーの理解度・満足度は高く、「座学だけではなく参加することができ内容が理解しやすかった」などの意見を頂いた。一方で、「事例検討・ロールプレイをするにあたりアイスブレイキングがあっても良かった」「実技の時間がもう少し長ければよかった」などのご意見を頂いた。今後も臨床でより役立つ研修となるよう、次年度に向けて講師の方々と研修内容について検討していきたい。



臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編

石川県済生会金沢病院 がん看護専門看護師

高地 弥里

毎年、超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）で、北陸地区の看護師に対して、リンパ浮腫を発症した患者さんへのケアを広める活動を行わせていただいています。今年度は初めてのコロナ禍での研修開催となりました。リンパ浮腫のセミナー開催にあたり、リンパマッサージによる手技の伝達を避けては通れず、感染拡大防止対策をとりながら県立看護大学の先生方と参加者の皆様のご協力のもと、会場参加の皆様に直接リンパマッサージ手技の伝達を行うセミナーを開催することができ、誠に感謝しております。

アドバンス編では、看護師がリンパ浮腫予防指導を行えるよう事例検討、ロールプレイを行い、また終末期患者のリンパマッサージの演習を行い手技の伝達講習を行いました。参加者の様子から予防指導におけるセルフリンパマッサージの指導は、一度きりの学習では覚えにくく、ポイントを押さえること、繰り返しの指導の必要性をロールプレイでも体験していただくことで、自信を持って予防指導およびセルフケア指導を行える看護師が増えていくことを望んでおります。終末期患者へのリンパマッサージ演習は毎年好評であり、少しずつですがマッサージ手技の伝達で患者さんの安楽に役立つことができると幸いです。



臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編 に参加して

石川県立看護大学大学院博士前期課程1年

実践看護学領域・成人看護学分野

池上 暁

私が以前勤務していた病院では、リンパ浮腫の予防やケアが必要となる患者さんは、前立腺がん術後の方や、終末期のリンパ浮腫の方がおられました。特に前立腺がん術後の患者さんには、パンフレットに沿って情報提供を行っていました。病棟内で勉強会を開いたりしながら、一般的な知識や予防行動等のパンフレット内容やその根拠は少しずつ理解できるようになりましたが、実際のアセスメントや援助方法がわからず、無力感がありました。

今回アドバンス編では、リンパ浮腫発症初期の事例を用いたグループワークの検討、リンパマッサージやストッキング装着の実践を行いました。グループワークでは、協力して多様な視点からアセスメントを考えることができました。ロールプレイの際には、患者役をさせていただきましたが、リンパ浮腫によるボディイメージの変容に対する思い、リンパ浮腫を持ちながら生活することの大変さが想像され、発症初期だからこそその精神的ケアの必要性を感じることができました。さらに終末期のリンパ浮腫へのケアは、触れ方にコツが必要であり、講師の方々に直接触れていただくことで参考書からはわからなかった感覚を学ぶことができました。

ゼロから学んだリンパ浮腫のケアでしたが、以前よりは自信をもてるようになったと感じています。これから出会う利用者さんにこの研修での学びを活かしていきたいと思います。

石川県立看護大学 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

2020年度 看護実践セミナー

参加費
無料

臨床で行なう リンパ浮腫のケア ～アドバンス編～

本セミナーは修了証を
発行します

演習
内容

- ・患者指導場面のロールプレイ
- ・マッサージの体験等(フェイスシールド着用)

講師

石川県済生会金沢病院 がん看護専門看護師
日本医療リンパドレナージ中級セラピスト
石川県済生会金沢病院
日本医療リンパドレナージ上級セラピスト

高地 弥里 先生
山岸 愛 先生

対象

医療職者 10名 2017年度以降本学で開催された
リンパ浮腫セミナーに参加経験のある方

2020年

10月3日(土)

9:00~13:00(受付8:45~)

申込締切:2020年9月25日(金)

WEBにてお申し込み下さい。
右記のQRコードからアクセスできます。
詳しくは裏面をご覧ください。



会場 石川県立看護大学 教育研究棟2階 成人・老年看護学実習室

主催 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業)

【お問い合わせ先】石川県立大学法人 石川県立看護大学

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地

TEL 076-281-8300(代) E-mail: ganpro-j@ishikawa-nu.ac.jp (担当:岡山)



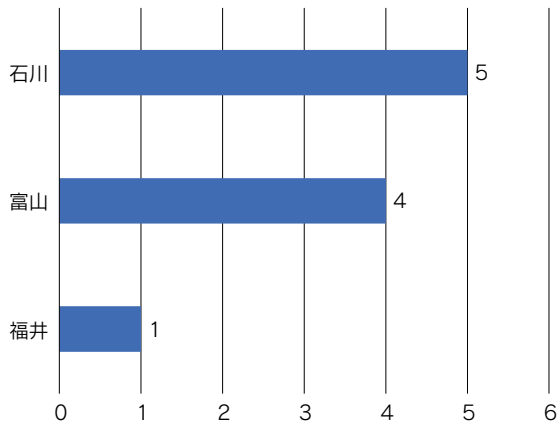
臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編 参加者アンケート集計結果

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

担当 岡山 のぞみ

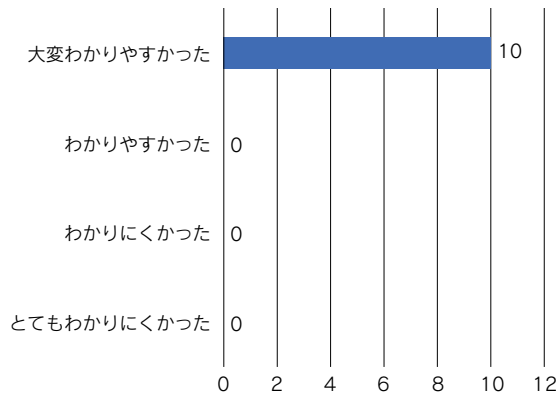
参加者は10名、アンケート回収者は10名（回収率100.0%）であった。

1. 参加者の居住地区（n=10）

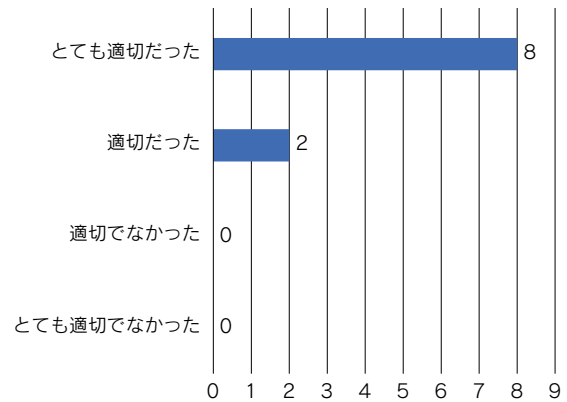


2. セミナーの内容等について（n=10）

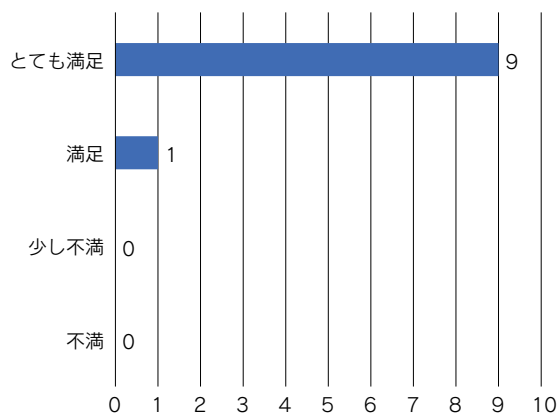
1) セミナーの内容



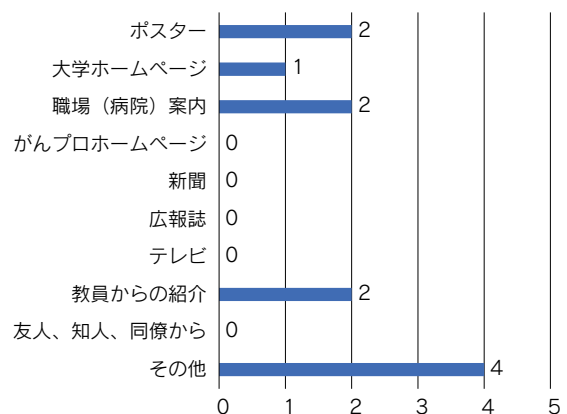
2) セミナーの所用時間



3) セミナーの満足度



4) 情報源（複数回答可）



3. セミナー参加理由（自由回答：複数回答）（ ）内は人数を示す

- ・基礎編を受講し、学びをより深めたいと思ったため（3名）
- ・浮腫のある方と接する機会が多く、ケアを学びたかったため（4名）
- ・自身のスキルアップのため（2名）
- ・医療リンパドレナージセラピストに興味があるため（1名）

4. 実技、ロールプレイの感想・意見（自由回答：複数回答）（ ）内は人数を示す

- ・ロールプレイでは指導、看護に繋げるために重要な視点を、実技では実際の触れ方について知ることができた
- ・座学だけではなく参加することができ、内容が入りやすかった
- ・貴重な人との関わり方を考えながら学べた
- ・病院での関りとは違うが、具体的な指導や在宅での取り組み方が分かるので、今後も充実させていきたいと思った
- ・患者の立場になり、看護師からの発言の感じ方を考える良い機会になった
- ・具体的にどう進めたら良いのか、課題を含めて理解できた
- ・とても分かりやすかった
- ・グループでの事例検討、ロールプレイをするにあたり、アイスブレイキングがあっても良かった

5. セミナーへの感想・希望（自由回答：複数回答）（ ）内は人数を示す

- ・とても分かりやすく勉強になった（4名）
- ・このような機会があれば積極的に参加したい（2名）
- ・患者さんのケアや家族が行えるケアを学ぶ事ができ、大変良かった
- ・マッサージを体験させてもらい、とても気持ち良かった。この手技を実施できるように持ち帰りた
いと思う
- ・セルフケアの指導だけでなく、アセスメントも含めて考えることができ良かった
左ふくらはぎの下に手を添えて置くだけでも、とても気持ちがよく、積極的に行いたいと思った
- ・患者さんの苦痛の軽減や安心感に繋がられるように試みたい
- ・ベッドでの実技の時間がもう少し長ければよかった

6. 今後希望する研修内容（自由回答：複数回答）（ ）内は人数を示す

- ・緩和ケアのコミュニケーション（ロールプレイを含む）
- ・深部ドレナージ

がんになっても自分らしい人生を過ごすために ～今から家族と人生会議（ACP）を～ を企画して

大学院実践看護学領域・成人看護学（がん看護）分野 教授
北信がんプロ・コーディネーター、本学がんプロ企画運営委員長
牧野 智恵

アドバンス・ケア・プランニング（Advance Care Planning :ACP）とは、患者さん本人と家族が医療者や介護提供者などと一緒に、現在の病気だけでなく、意思決定能力が低下する場合に備えて、あらかじめ、終末期を含めた今後の医療や介護について話し合うことや、意思決定が出来なくなったときに備えて、本人に代わって意思決定をする人を決めておくプロセスを意味している。ACPのガイドラインは2018年に4度目の改訂版が出され、がん患者のみならず慢性疾患を患っている患者や高齢者患者にとっては、重要なことである。

そのような医療現場の状況を受け、2020年度の北信がんプロの合同市民公開講座では、ACPをテーマに9月13日（日）13時～16時にホテル金沢にて開催した。

石川県立看護大学のがんプロ企画委員が中心となり、金沢大学、金沢医科大学、福井大学、富山大学、信州大学の関係教員で準備を進め、北信がんプロと北國新聞が主催、かほく市が後援、北陸CNSの会の共催で開催した。

今年度は4月からCOVID-19によるコロナ感染拡大の状況において、合同市民公開講座の開催の実施の見合わせも考えられたが、感染予防対策の方法を検討し、当日の会場への参加者を40名以下に制限し、リモートによる参加方法を検討するなどした。その結果、当日会場参加者26名（関係者を入れて40名）、リモート参加者131名があった。また、その後2週間はYouTubeによる視聴を可能とし、約480回のアクセスがあった。

第1部は御供田幸子さんによる「病気になっても自分らしく生きている私の人生」「爆笑婆ちゃんコント」、第2部は武蔵野大学の樋口範雄特任教授による「アドバンス・ケア・プランニングと厚労省ガイドライン」、第3部は北信がんプロ・コーディネーターによるパネルディスカッションを開催した。



本企画によって、がんになっても自分らしい人生を送るために、今から1回/年に家族や親しい人とともに万が一の時のような治療を受け、どう過ごしたいかなどについて話し合うきっかけになればと願う。



北信がんプロ合同市民公開講座

がんになっても自分らしい人生を過ごすために

北信三県と長野県の6大学で取り組む、がん専門医療人材養成プラン「北信がんプロ」は、9月13日、金沢市のホテル金沢で合同市民公開講座を開きました。来場者は、終末期に望む医療を事前に家族や医師らと話し合う人生会議「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)」について理解を深めました。講座は石川県立看護大学のがんプロ企画委員が中心となって実施しました。

より良い生き方実現



「アドバンス・ケア・プランニング」と厚労省ガイドライン
 樋口 範雄氏 武蔵野大学法学部特任教授

「ACP」では、患者ごとの家族、医師、看護師が話し合い、患者の人生観や希望に基づいた医療ケアを実現することが重要です。ACPは、医療現場での実践が前提で、医師、看護師、薬剤師、ケアマネジャー、法律家など多職種による連携が不可欠です。18年にはガイドラインが改定され、よりACPを推進する内容となりました。例えば、患者本人の意思だけでなく、家族や医師の意見も尊重されること、ACPの活用を促すこと、ACPの実施を医師や看護師がサポートすることなどが盛り込まれました。これにより、本人が意思決定できない状態になっても、医師チームはその人と治療の方針を相談できます。病院だけでなく、在宅でもACPを実施することができるようになります。

在宅で施設を連携して治療を受けるケースも増え、終末期医療は多様化しているため、介護関係者との連携もガイドラインに追加されました。ACPでは、患者ごとの希望や価値観に基づいた方針を決定するだけでなく、患者本人にとってより良い生き方を実現する方針も重要です。例えば、日本ではある医療施設では、あらゆるACPで希望を出した患者は、朝衣に病院服ではなく、好きな服を穿てられ、施設内でも自由に好みの衣服を着ることができます。このように、患者ごとの価値観を尊重するACPを、より良い生き方に活かすことが重要です。終末期に比して日本では事前の計画を立てる意識がまだ浸透していません。ACPの推進には、一層の法的な整備が必要でしょう。

希望に沿う終末期ケアを

御供田氏も講演

真実話せる 家族大切に



韓国在米公使館の御供田千尋氏は、「病気になっても自分らしく生きていく私の人生」と題して講演しました。御供田氏は中学3年生の時に野暮田病気で命を失った経験から、病気の病気で命を失ったことを後悔し、家族と向き合った人生を送り、病気を乗り越えた経験を振り返り、病気を乗り越えた経験から病気を乗り越えるためのヒントを多くの人に伝えたいと、講演しました。御供田氏は、「病気を乗り越えるためには、真実を話し合える家族が大切。今は毎日が誕生日だと思えばいい。医師と向き合えばいい。命を失ったことが、感謝している。2018年には健康な心臓を移植しました。」

パネルディスカッション ACPの普及を考える



パネルディスカッションでは、金沢大学がん連携診療科 菅野雅博内科の矢野聖二教授、石川県立看護大学成人看護学 領域の牧野智恵教授の司会で、ACPの意義や普及に向けた課題について意見交換しました。



菅野氏は、本人の意思だけでなく、家族の意見も尊重するACPの重要性を述べ、ACPの活用を促すことが重要です。ACPの実施を医師や看護師がサポートすることなどが盛り込まれました。これにより、本人が意思決定できない状態になっても、医師チームはその人と治療の方針を相談できます。病院だけでなく、在宅でもACPを実施することができるようになります。

主催/北信がんプロ(北信3県と長野県の6大学で取り組むがん専門医療人材養成プラン) 実行委員会(金沢大学、石川県立看護大学、石川大学、福井大学、長野県看護大学、北信新薬科大学)

病気になっても自分らしく生きている私の人生

劇団「花幸会」座長

御供田 幸子

御供田氏も講演

真実話せる 家族大切に

劇団「花幸会」の御供田幸子座長は「病気になっても自分らしく生きている私の人生」と題して講演しました。

御供田氏は中学2年の時に腎臓の病気で余命4カ月と診断され、家族会議で人工透析をしない判断に至った過去を振り返りました。病気から回復後、唄や踊りを生業にした人生を歩んできたことを紹介し「どんな病気にかかっても真実を話し合える家族は大切。今は毎日が誕生日だと思いい、朝を迎えるたび、生かさせてもらえたことに感謝している」と話しました。

2018年には虚血性心疾



患(狭心症)で血管のカテーテル治療を受けた経験から、病気で分からない点があれば、とことん医師に尋ねればよいと強調しました。医療関係者の尽力で再び舞台に立てるようになったことに「返しきれないほどの恩をもらったと思う」と感謝を込めました。

出典 北國新聞社 2020年10月18日(日) 25面



厚労省ガイドラインと アドバンス・ケア・プランニング（ACP）

北信がんプロ合同市民公開講座「がんになっても自分らしい人生を
過ごすために～今から家族と人生会議（ACP）を～」

2020年9月13日（日）13：00～15：30

武蔵野大学法学部特任教授 樋口範雄

nhiguchi@musashino-u.ac.jp



2007年ガイドライン「終末期医療の決定 プロセスに関するガイドライン」

- ① 終末期医療の方針は医師1人ではなく、「医療ケア・チーム」で決定する。
- ② 患者の意思・希望を尊重することを基本として、家族等の考えもそれを補足するものとして尊重する。
- ③ 国も緩和ケアの充実を図ること

2018厚労省ガイドライン

2018年改訂

「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセス
に関するガイドライン」

主要な改訂ポイント

- ① Advance care planning の推進
- ② 少なくとも本人が信頼できる人の明示を
- ③ 医療だけではなく介護とも連携して

2018改訂ガイドライン

改訂の背景にあるもの

- ① もはや刑事制裁のおそれはない
(積極的安楽死のような事例は別だが)
- ② 超高齢社会の日本 → プランニングの必要性
高齢者の増加と高齢時代の長期化
- ③ 介護保険20年 在宅介護・施設介護
病院で亡くなる時代にやや変化が見られる
- ④ 英米では、Advance care planning
+ health agent (health proxy) それもまた自己決定

ACPとは何か

- 日本医師会のリーフレットによれば、「将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、患者さんを主体に、そのご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、患者さんの意思決定を支援するプロセスのことです。患者さんの人生観や価値観、希望に沿った、将来の医療及びケアを具体化することを目標にしています。」ということである。

ACP（人生会議）とは

まずACPとは何か。それは文字通り、事前の(アドバンス)プランニング(備え、計画)であり、その対象は、本人の将来におけるケア(医療・介護)のあり方である。要点としては、次の2点がポイントとなる。

① 将来におけるケアとは、終末期医療より広い概念である。ACPは高齢者だけを対象とするものではないが、それでも超高齢社会の日本においてその意義が強調されるのは、多くの人にとって高齢期が長期にわたる時代になったからである。

その結果、個々の人々(本人)がどのように生きていくかをプランニングすることが、まず本人にとって重要になった。たとえばアメリカでは、ほんやりナーシング・ホームに入るとお仕着せの服とお仕着せの食事が待っている。だが、ACPをして入った場合、自分がこれまで生きてきたようにナーシング・ホームでも暮らすことがある程度可能になる。それは毎日の服装や食事に反映する。要するに、自分にとってのQOL (quality of life) を高めた生き方をする手段がACPなのである。決して、延命治療を中止する意思表示をするだけがACPではない。

② 誰がACPの話し合いに参加するかも重要である。

「患者さんを主体に、そのご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合い」を行う。本来は、患者本人がそれを始める中心であるべきだが、実際にこのような発想をする人はこれまでは少なかった。今後も、自分のことで他人を集めて相談に乗ってくれということを多くの人が言い始めるとは思えない。そこで、話の対象が将来の医療・介護のあり方であるなら、やはりそのきっかけは医療または介護の専門家に委ねるのがよい。あるいは他にはよい方法がないとも思われる。

なぜACPを推進するのか

- ① 誰よりも本人のため
 - ② 家族のため
 - ③ 医療者など関係者のため
- ただし事前のプランニングという意識形成が難しい

がんになっても自分らしい人生を過ごすために ～今から家族と人生会議（ACP）を～ に参加して

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員

松本 智里

2020年9月13日（日）にホテル金沢で開催された合同市民公開講座「がんになっても自分らしい人生を過ごすために～今から家族と人生会議（ACP）を～」に参加した。

第1部「病気になっても自分らしく生きている私の人生」の講師の御供田幸子さんは、疾患を持った自分を受け入れて、関わってくれる人に感謝をしながら生きていくことが大切だとおっしゃっていた。疾患さえも運命と受け止めて、講演活動をされる御供田さんの生き方に、どんな環境にあっても、人は考え次第で素晴らしい生き方ができるのだと考えさせられた。

第2部「アドバンス・ケア・プランニングと厚労省ガイドライン」では、講師の樋口範雄先生が、人生会議を特別なものと位置づけるのではなく、定期的に誰もが行うものという考え方をすることを提案された。終末期に特化した考え方ではなく、これからの人生をどう過ごしたいかという話だと思えば、家族の中でも話しやすいと感じた。

これらを受けて、第3部「パネルディスカッション」では、6大学のがんプロ運営委員の先生方が医療現場での人生会議について意見交換された。終末期になってから人生会議を持とうとすると、行うタイミングをつかめないままになってしまう例があることが話された。家族の人生について意思決定する時に、自分の家族が望んでいることを自信を持って伝えられるようになりたいと感じた一日であった。



2020年度事業 北信がんプロ合同市民公開講座

参加費無料

▶申し込みは下記QRコード、
または裏面の
お申し込み方法をご確認ください。

会場での参加
**定員
40名**

オンラインでの参加
**定員
制限なし**

～今から家族と人生会議(ACP)を～ がんになっても自分らしい 人生を過ごすために



この講座は、医療従事者だけでなく一般の方々もご参加いただける公開講座です。

**ACP
とは?**

もしもの時のために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合う取り組みを「人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)」と言います。
今や、がんは2人に1人は罹患するといわれています。がんになってからの人生を考えるのではなく、がんになる前に(元気な時から)、家族や大切な人と、もしもの時にどのような医療を受けたいか、どのような人生を送りたいか話しておきましょう。

今回の合同市民公開講座では、感染症対策として3密を回避すべく、「会場での参加」と「オンラインでの参加」を募ります。
会場では消毒・換気の実施、一人ひとりの間隔を2m以上あげ、少しでも安全な会場運営を進めて参ります。
※「オンラインでの参加」はYouTubeライブ配信を利用して、ご自宅のPCやスマートフォンからご視聴いただけます。

◀ **プログラム** ▶

13:00 開会の挨拶
牧野 智恵 (石川県立看護大学 教授)

希望された方に修了証を発行します (医療従事者のみ)

**第1部
13:05～**

「病気になっても
自分らしく生きている私の人生」講師：御供田 幸子氏
「爆笑 婆ちゃんコント」

劇団「花幸会」座長。活動は多岐にわたり、年間200回を優に超えるステージを踏む。



**第2部
14:00～**

「アドバンス・ケア・プランニングと
厚労省ガイドライン」講師：樋口 範雄 先生 (オンラインでの参加)

東京大学名誉教授・武蔵野大学法学部特任教授
厚生労働省委託事業「人生の最終段階における医療体制整備事業」に携わる



**第3部
14:55～**

「パネルディスカッション」

司会：矢野 聖二 (金沢大学 教授)

樋口 範雄(武蔵野大学)、
矢野 聖二(金沢大学)、元雄 良治(金沢医科大学)、林 龍二(富山大学)、
廣野 靖夫(福井大学)、小泉 知展(信州大学)、牧野 智恵(石川県立看護大学)

15:25 閉会の挨拶 元雄 良治 (金沢医科大学 教授)

2020年

9月13日(日)

13:00～15:30
(受付 12:30)

※会場参加は定員になり次第、締め切らせて頂きます。

【申込締切】2020年9月9日(水)



ホテル金沢(ダイヤモンドB・C)

〒920-0849 石川県金沢市堀川新町1番1号 TEL 076-223-1111

お申し込み・お問い合わせ

石川県公立大学法人 **石川県立看護大学**
〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地 (担当: 岡山)
TEL 076-281-8300 (代) FAX 076-281-8319

主催：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)、石川県立看護大学
金沢大学、金沢医科大学、富山大学
福井大学、信州大学、北國新聞社

共催：北陸CNSの会
後援：かほく市



「がんになっても自分らしい人生を過ごすために～今から家族と人生会議（ACP）を～」 参加者アンケート集計結果

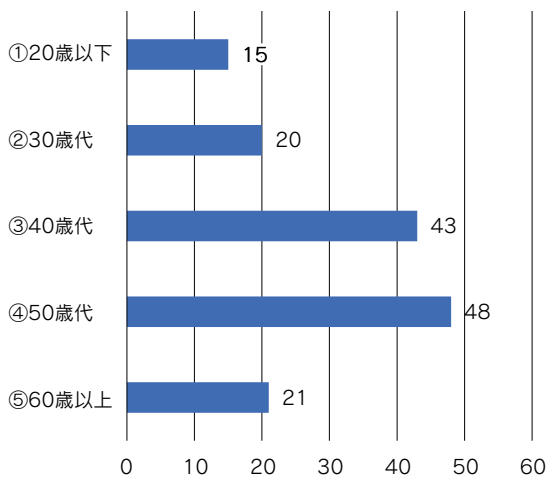
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

担当 岡山 のぞみ

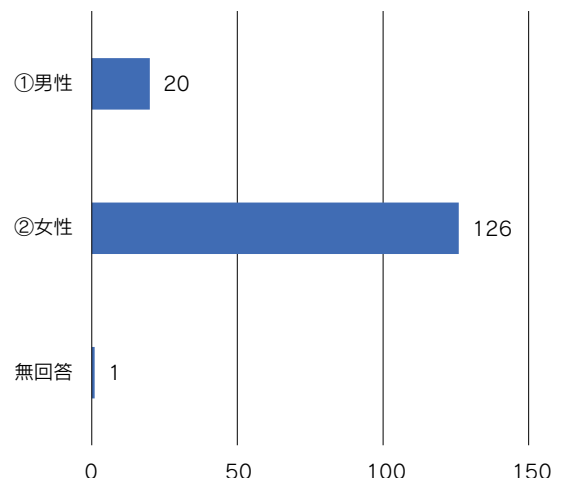
参加者は181名（会場40名、オンライン131名、信州大会場10名）、アンケート回収者は147名（回収率 81.2%）であった。

1. 参加者について（n=147）

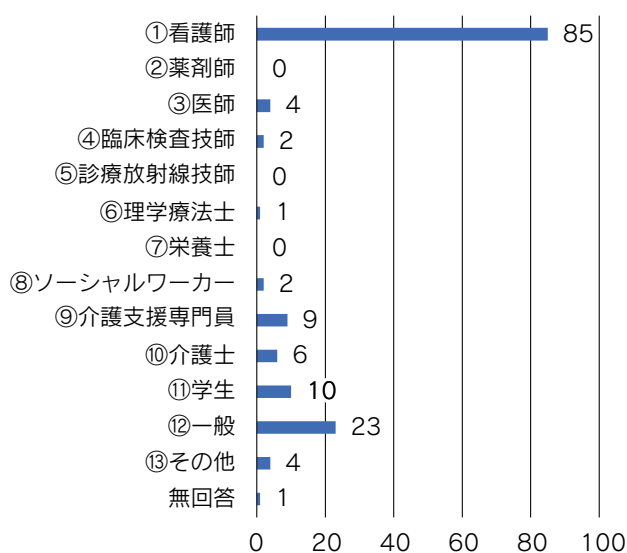
1) 年齢



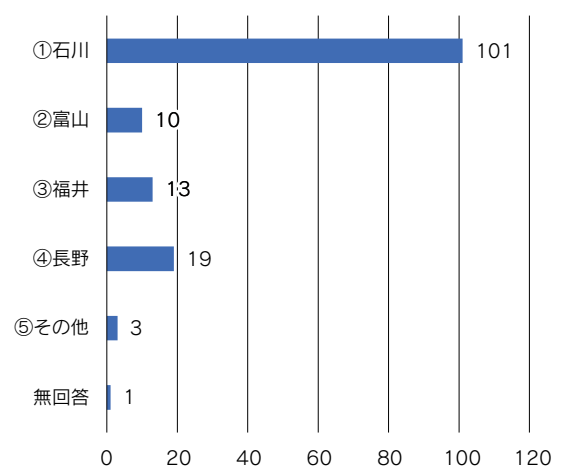
2) 性別



3) 職種

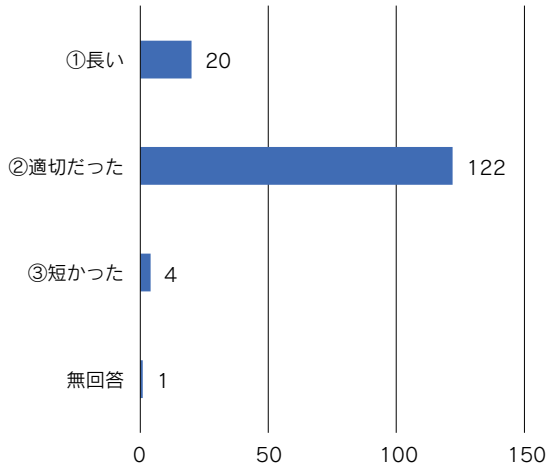


4) 居住区

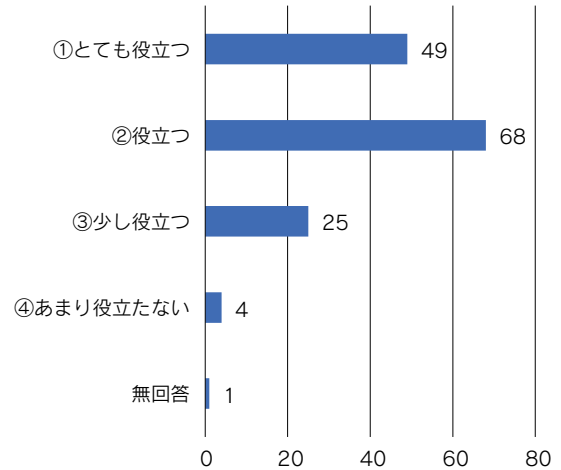


2. 第一部「病気になっても自分らしく生きていく私の人生」「爆笑 婆ちゃんコント」 参加した感想について (n=147)

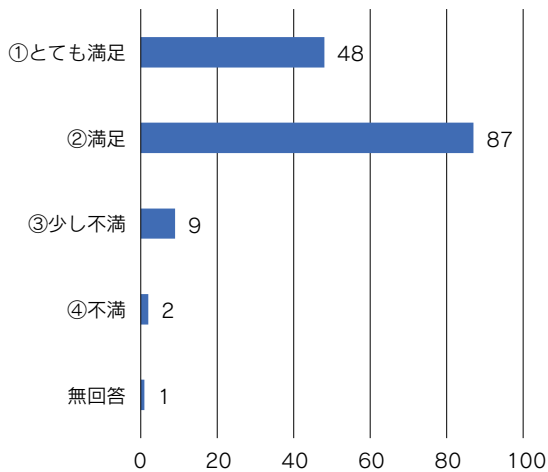
1) 所要時間



2) 今後に役立つと思いますか

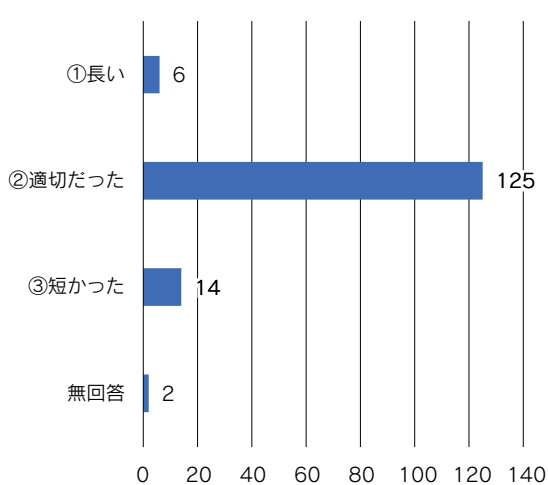


3) 講演の内容

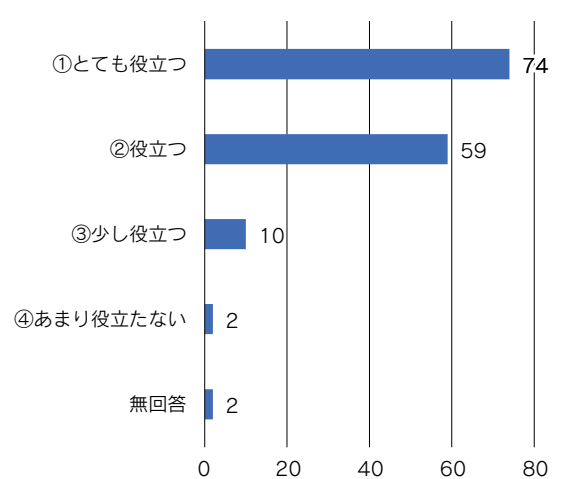


3. 第二部「アドバンス・ケア・プランニングと厚労省ガイドライン」 参加した感想について (n=147)

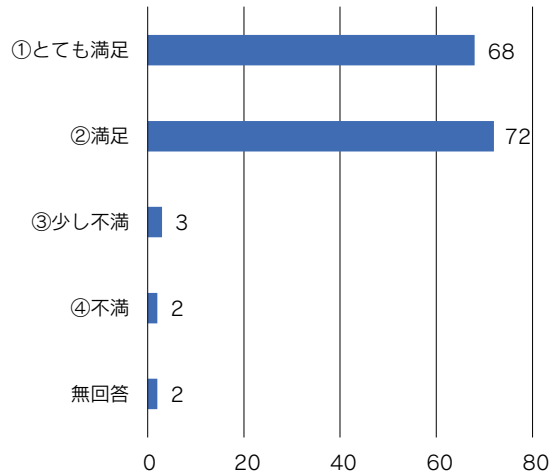
1) 所要時間



2) 今後に役立つと思いますか

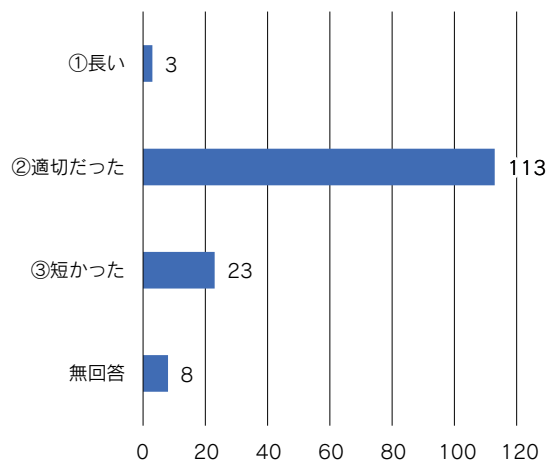


3) 講演の内容

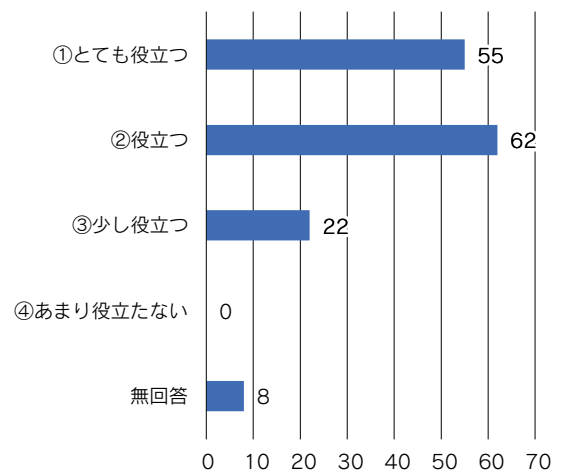


3. 第三部「パネルディスカッション」 参加した感想について (n = 147)

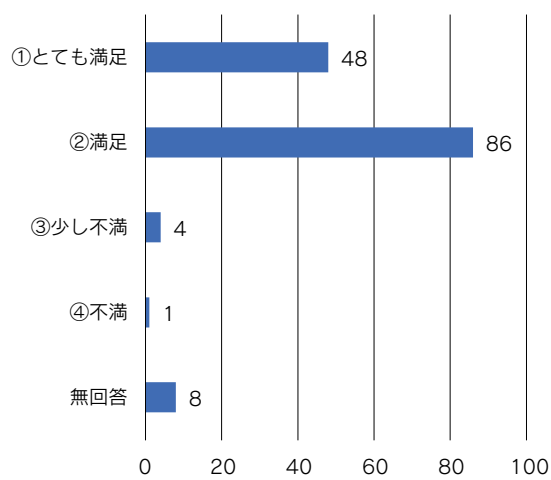
1) 所要時間



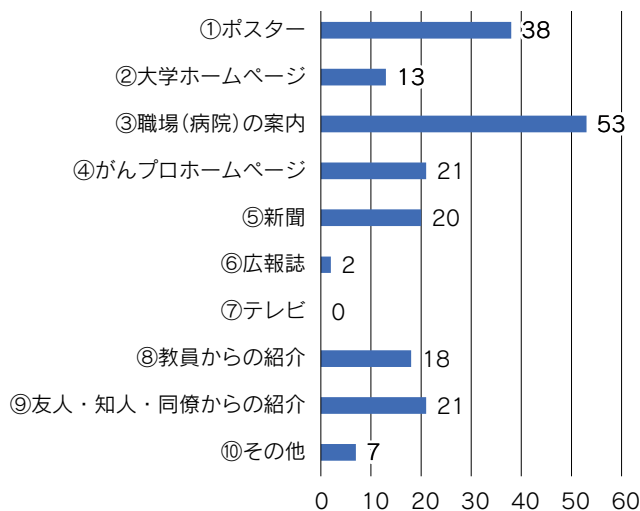
2) 今後に役立つと思いますか



3) 講演の内容



4. 情報源について (n=147)



5. 本日の講演会の参加理由についてお聞かせください

- ・ACPに興味、関心があるため (24名)
- ・ACPについて学びたい、理解を深めたい (36名)
- ・ACPを広めたい、施設でACPを取り組もうとしているため (9名)
- ・ACPの現状や他施設の取り組みを知りたかったため (6名)
- ・自ら(身近な方)ががんを患ったため、がんの講演を聞いたかった (10名)
- ・今後ACPが重要だと思っているため (8名)
- ・ACPの実践について悩んでいる、不満があるため (2名)
- ・御供田さんの話に興味があった (8名)
- ・樋口先生の話に興味があった (4名)
- ・北信がんプロの講演会に参加したかった (4名)

6. その他、本日の講演に関するご意見感想をお聞かせください

- ・とても興味深く、分かりやすかった (8名)
- ・参考になった、勉強になった (6名)
- ・ACPを多くの人に知ってもらいたいと思った、広く知られてほしいと思った (3名)
- ・ACPの必要性、大切さが分かった (10名)
- ・御供田さんの話が参考になった (4名)
- ・樋口先生の話が参考になった (10名)
- ・オンラインで参加することができて良かった (11名)
- ・第一部の音が聴き取りにくかった(オンライン参加者) (4名)
- ・会場参加の看護師さんの質問が参考になった (4名)
- ・パネルディスカッションの時間をもう少し取ってほしかった (4名)
- ・他施設の取り組みや実際の状況を知ることができて勉強になった (3名)
- ・訪問看護をしており、パソコンとコーヒー、中華料理のようなことは、よくあることで、もう余命のない方に対してドクターの指示でいろいろ制限されることに不満を感じている。自身が利用者さんと

声をあげても、先生の指示だからね、で終わってしまうので、アドバンスケアがドクターにもっと浸透することを期待している。

- ・第1部の疾患を抱え生きる体験談も、第2部の法律からみたACPの見解など、多角的にACPについて考えることができた。パネルディスカッションでは、各施設での取り組みの現状やその難しさや工夫を聞いて参考になった。
- ・ガイドライン作成までの背景やその目的を理解することができた。少しでも当事者やケアスタッフが後悔の無いように、まずはしっかりコミュニケーションを取りながら利用者さんの想いに耳を傾けていくことから始めていきたい。
- ・ACPについての理解が不十分で、DNRと混同されている場面を見る。どのように死ぬかではなく、どのように生きるかだと思う。
- ・やはりACPがまだまだ周知されていない状況にあることが理解できた。ガイドラインをいくら丁寧に作成しても、現場のスタッフが活用を心掛けていかなければ難しいと思う。診断時になされる場合、やはり主治医が率先して話し合いに参加して下さる事が、患者さんも安心され、一番方向性がまとまりやすいことは何度も経験しているので、今後もっと先生方がACPに関心を深めて下さることを期待したい。
- ・終末期の利用者さんやご家族との会話の中で、意思決定の支援のタイミングかなと感じる場面がある。そのようなときに正しい情報を訪問看護師から病院のドクターにうまく連携が取れていったときに、利用者さん自身の思いに寄り添った支援ができたのかなとホッとする。これからも利用者さんご家族の本当の想いを汲み取れるような支援ができるよう頑張りたい。
- ・普段のケアを行いながら、これまでどのような人生をご家族と共に送られてきたか、長い人生のその一部分だけかもしれないがお聞きする事がある。語る時の皆さんは、懐かしんだり微笑んだり良い表情をなさっている。意思決定支援に対しハードルの高さや苦手意識があったが、本日の講演を聞き、どのように生きてきたか、これからどのように過ごしていきたいかを自然な場面で語り合えたらと思った。
- ・会場からの質問はよく分かった。特に医師を頂点としたヒエラルキーの強い現場では誰からでも発言しやすい環境づくりは非常に大切だと感じる。例えば介護施設の場合、入所の時点で意思を確認し、定期的にケアプラン作成、サービス担当者会議の中で確認、その上で状態が変わってきたときにあらためて確認する、その繰り返しが必要と感じている。利用者自身や家族が感じているその時々の「絶好のタイミング」に「支援する」ことが必要と感じている。
- ・予後数カ月のターミナルの方を担当し人生会議となるとかなり深刻である。今日の講義を聞き、事前に時期を決めてACPの話しあいができていると、本人、家族お互いに心の準備ができ、死期が近づいた時にはより深めた、踏み込んだ話ができるように思った。
- ・ACPが広く知られ、日常の中で当たり前に行えるようになるためには厚労省が中心となって末端まで浸透されるような通達が必要ではないかと感じた。福祉施設内でも介護職には知られていないのが現状であり今後の課題でもある。
- ・個人的な意見ですが、ご家族にもイニシアチブが取れる力のある方がいらっしゃることもあり、ケースバイケースだと思う。医療者は、だれがいつ口火を切るのが良いか、誰がイニシアチブを取れるのかを見極めてその人の力を伸ばすように支援する役割ではないかと思う。そういった意味で

は樋口先生が、「病気になる前から」と強くおっしゃっていたことが納得でき、国民全体にそのことが浸透することが必要不可欠であると感じた。病気になる前からのACPを医療者と自然に共有する社会になると良いと思った。

7. 今後どのような研修会や講演会を希望するかお聞かせください

- ・ACPの実践や実際の事例、具体例について (21名)
- ・患者さんの体験談、がんを患う方の家族支援など家族で参加できる研修 (6名)
- ・オンラインで参加できる研修
- ・緩和ケア専門ではない病棟やスタッフが、基本的緩和ケアについて学ぶ機会や研修
- ・各疾患の新たな治療法、がん治療における倫理的問題について
- ・障害児を残し、先立つ両親として子供のために何を準備すべきか
- ・がん医療の最新情報
- ・がん治療にかかる費用やどのような生命保険に入ったら良いか
- ・今回のように、医療者だけではなく様々な方々のお話を聞きたい
- ・在宅における看取りのあり方について
- ・遺伝子診断に関して、体制や支援について多施設の意見を聞きたい
- ・救急現場におけるDNARの意義と今後の展望
- ・ゲノム医療について、実際にどのように行われているのか、今後の新たな方向性について
- ・「生きるとは」とテーマにした医療講演
- ・終末期医療の在り方

CNS関係者によるがん看護事例検討会を開催して

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）

石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員

瀧澤 理穂

9月13日（日）にCNS関係者によるがん看護事例検討会を開催した。今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、3密を回避した会場とオンラインでの参加を募った。県内外からがん看護及び老人看護のCNSやCNSコースで学ぶ大学院生、計22名に参加いただいた（会場8名、オンライン14名）。また前年度に引き続き、スーパーバイザーとして北里大学病院 がん看護CNSの近藤まゆみ先生にオンラインにてご参加いただいた。

がん看護CNS候補生から、進行がん患者の治療選択に伴う意思決定に関するコンサルテーションの実践について事例提供があった。CNSがコンサルテーションを進めていく上では、問題を明確化することが重要あるが、そこが一番の難問でもある。CNS自身が患者の全体を理解するためには、看護記録だけでは把握しきれない患者の背景を知る必要があり、「なぜ？」という問いを繰り返しながら現象を捉えることで、アセスメントを深めていくことの重要性を共有した。また人の意思は時間と共に変化していくという自然な意思決定のプロセスのあり様を理解し、意思決定の結果だけではなく、そこに至る過程や患者の背景に深く関心を寄せることがCNSならではの大切な視点であることを再認識した。

今回はコロナ禍での開催となったが、オンラインを活用することで、遠方の方や育休中の方も参加が可能となり、CNS関係者同士が日々の実践を振り返りやディスカッションを通して、新しい知見を得る有意義な機会となった。



CNS関係者によるがん看護事例検討会に参加して

城北病院 看護師

濱鍛治 青水

今回私はがん看護CNS候補生として、CNS関係者によるがん看護事例検討会で自分の実践について発表させていただきました。北陸の各施設で日々実践を積み重ねられているCNSの先輩の皆様から様々なご質問、ご助言を頂き、私が事例をどう捉えて何に悩んでいたのか、自分自身の事例への理解を整理する事ができました。さらに自分になかった視点に気付かされ、CNSとしての視点を具体的に認識する機会を得る事ができました。またスーパーバイザーのがん看護CNSである近藤まゆみ先生から、CNSとして事象を捉える際、対象のアセスメントを基本として問いを繰り返し続ける事が重要であるとのご指摘は、日々の実践への活力となりました。今回得た学びを糧に、がんを苦悩する患者、家族、そこに関わる看護師を含め多職種の皆様が、少しでもよかったと思える何かをつかめるような実践ができるCNSを目指し努力し続けたいと思います。

ご助言いただきました各領域で看護向上に日々ご尽力されているCNSの先輩方、北里大学病院の近藤まゆみ先生に心より感謝申し上げます。またこのような機会を与えてくださった北陸CNSの会、北信がんプロの先生方に感謝致します。

CNS関係者によるがん看護事例検討会に参加して

石川県立看護大学大学院博士前期課程 本科生1年

実践看護学領域・成人看護学分野

天日 更織

CNS関係者によるがん看護事例検討会が開催されました。今回初めて参加させていただきましたが、がん看護専門看護師の近藤まゆみ先生をはじめ、北陸3県で活躍するCNSがオンラインでの参加という異例な形での検討会になりました。

私は、がん看護専門看護師を目指し大学院で学びはじめ、6ヶ月しか経過していない立場ではありますが、現在各施設で活躍するCNSが、各々の力を発揮し多職種間での連携や協働を通し、複雑な問題を抱えるがんの患者や家族、また同僚のスタッフの抱える問題などを、コンサルテーションやコーディネーションしていく技術を聴講できる貴重な学びの機会となりました。

臨床の現場では、様々な問題を抱えるがんの患者さんや家族の事例に遭遇することもしばしばあります。私には未だ、CNSのように複雑な問題を解決していく技量はありませんが、問題となる事例をCNSならどのように情報収集し、アセスメントするか、コンサルティとの関係をどのように作っていくのかを思い返し、問題を見つめていくことは臨床の現場にいるからこそ少しずつ実践出来ることではないのかと気付きました。

今回、コロナ渦で各施設が様々な境遇に置かれ、更に感染予防のため対面での開催は出来ない状況ではありましたが、WEB会議でも充実した意見交換や情報共有ができて有意義な検討会であったと思います。

石川県立看護大学
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

2020年度

CNS関係者による がん看護事例検討会

修了証を
発行します

CNS関係者を対象としたがん看護事例検討会を
スーパーバイザーに参加いただき、下記の日程で開催致します。

日時・場所

2020年9月13日(日)

16:00~17:30 ホテル金沢2F 扇

スーパーバイザー:北里大学病院

がん看護専門看護師 近藤まゆみ先生

内容

16:00~17:00 事例検討

17:00~17:30 北陸CNS会からの
検討事項・連絡事項等

参加方法

会場参加 もしくは **オンライン参加**

※オンラインでの参加は、Web会議サービス
「ZOOM」を利用して、ご自宅のPCやスマートフォン
からご参加いただけます。

参加資格

- ・CNSの方(どの領域の方でも)
- ・今後CNS受験予定の方
- ・CNSコースの大学院生

お問い合わせ

〒929-1210
石川県かほく市学園台1丁目1番地
石川県立看護大学 がんプロ担当(岡山)
TEL:076-281-8300(代表)
E-mail: ganpro-j@ishikawa-nu.ac.jp

共催:北陸CNSの会



CNS関係者によるがん看護事例検討会 参加者アンケート集計結果

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）
担当 岡山 のぞみ

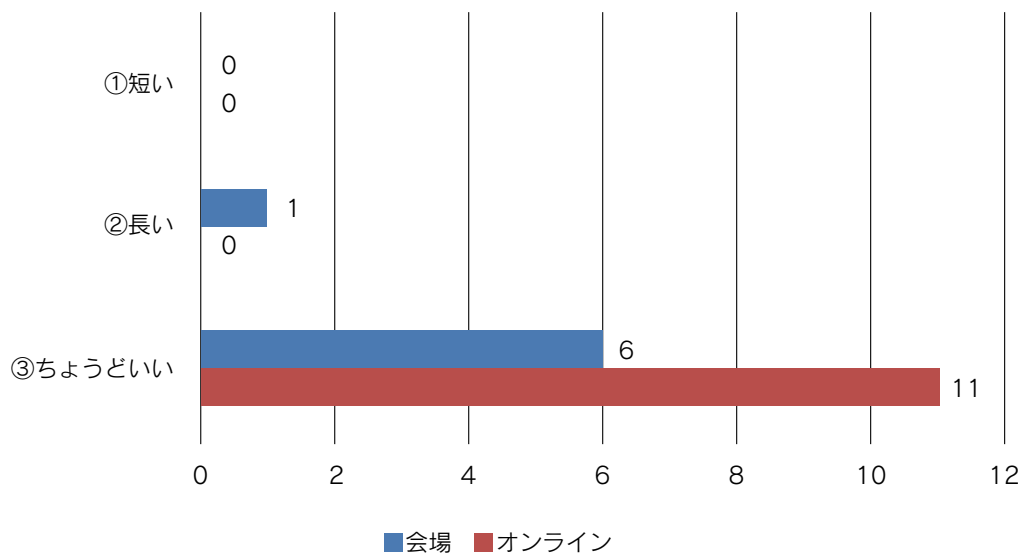
9月13日開催のCNS関係者によるがん看護事例検討会の参加者は計22名であった。

22名の内訳は会場参加8名、オンライン参加14名であった。

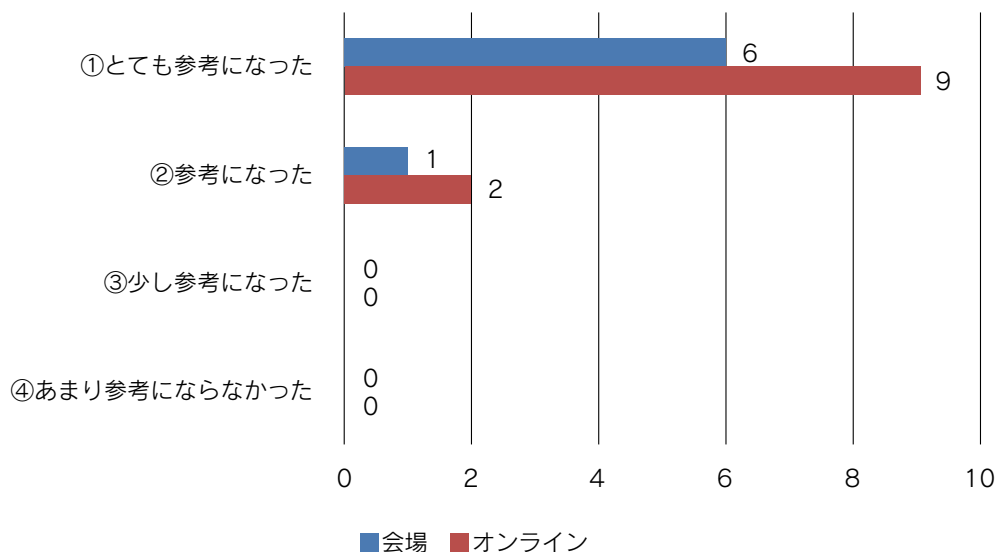
アンケート対象者21名にアンケート用紙を配布、18名より回答を得た。（回収率 85.7%）

1. 事例検討会の評価について

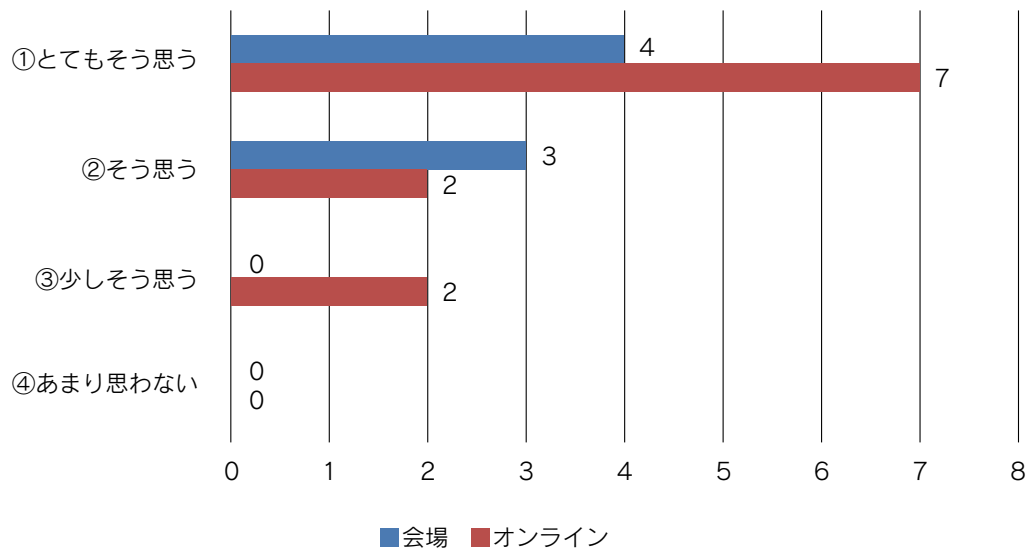
1) 所要時間はどうでしたか



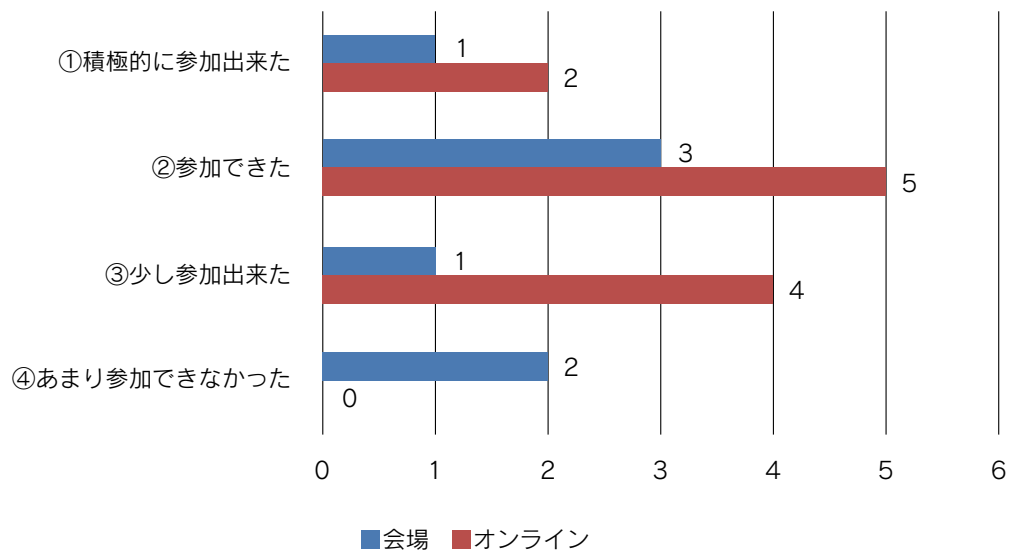
2) 事例検討会の内容は参考になりましたか



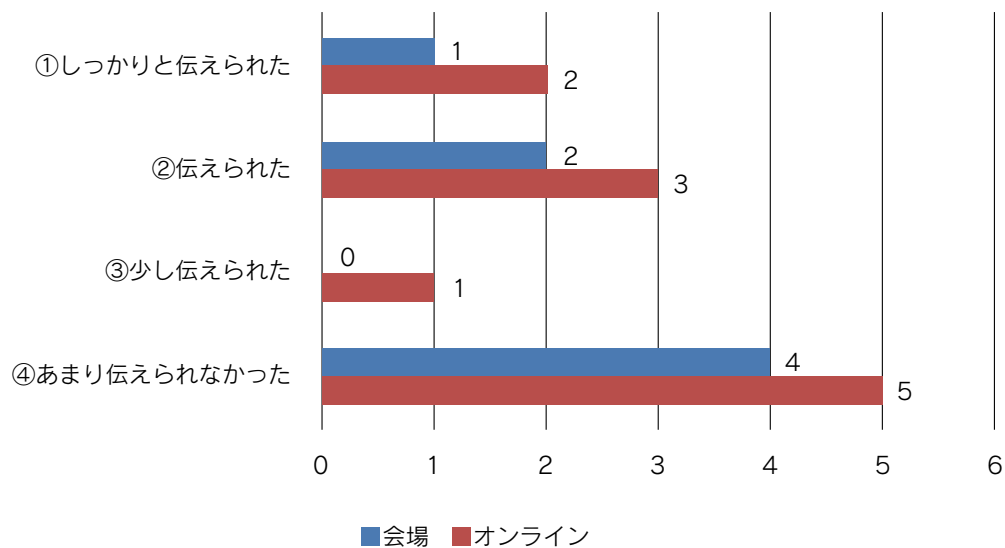
3) 日頃のがん看護実践を振り返る機会となりましたか



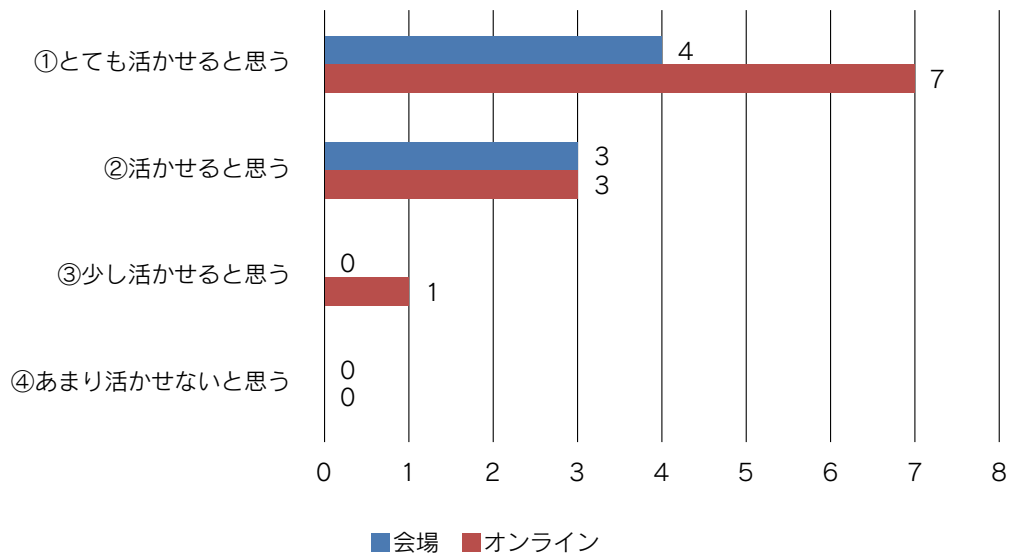
4) 討議には積極的に参加できましたか



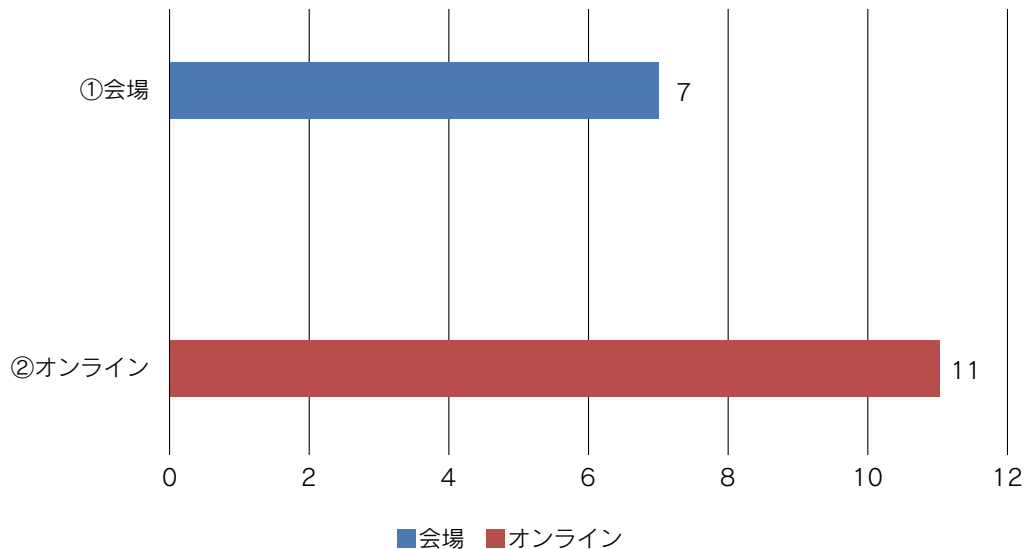
5) 自身の経験を踏まえて意見など伝えることができましたか



6) 今後のがん看護実践に活かせると思いますか



7) 参加方法



8) オンラインでの開催についてどのように思いますか

- ・ZOOMでの音声トラブルにより、参加方法を急遽PCからスマートフォンに変えたため、バタバタしまった。不慣れなためシステムへの慣れやテストの機会が必要だと思った。
- ・会場参加の方の声が、マイクを通していか終始割れてた。テストをするか、参加者に聞かして確認した方がよいと思った。チャットでもお伝えしていたが改善されなかった。
- ・オンラインでも十分協議できると思った。会場での検討もいいが、オンラインも織り交ぜていただけるとうれしい。
- ・本検討会だけであれば、もう少し長い時間を設けても集中力が保たれるが、市民公開講座もセットの時は今回の時間が限界かと思った。どうしても画面を通してだと、疲れ方が違って集中力を保てる限界があるように感じた。
- ・オンラインで途中から参加した方の確認と紹介も行ってほしい。

2. 検討してみたい事例のテーマ・内容について

- ・高齢者の外科的治療の意思決定や、急性期における安全対策とADL低下予防の対策について、実際行っているケアや看護師が感じていることなど話し合いたい。
- ・倫理調整についての関わりなど
- ・認知症、子供を持つAYA世代のがん患者
- ・倫理コンサルテーションのCNSの間接的な役割、看護実践の小さなもやもやに潜む倫理的問題を明らかにする、またスタッフの言語化に導くためのCNSの高度実践について

3. 自由記載

- ・まずは対象理解を十分にできるよう、背景を知る努力を欠かさないようにしたいと思った。
- ・会場とオンラインでの開催だったが、違和感なかった。
- ・オンラインでも参加できるので今後も続けてほしい。
- ・がん以外の事例もあるというお話があったが、がんプロの名称からは事例検討会の持ち込みや参加はがんCNSに関わる方のみという印象が強い。CNSの活動に興味もあり、勉強になるので、参加が許されるならばありがたいと思う。事例の概要が予めわかれば、別の分野からも参加しやすい。
- ・がん看護分野と他の分野のセットで事例検討会を行って欲しい。広い視野から学びたい。



AYA WEEK 2021

この講座は、医療従事者だけでなく、
一般の方々もご参加いただける 公開講座です。

AYA世代のがん体験談から その支援を考える

会場での定員 40名

オンラインでの定員
制限なし

AYA世代
とは？

Adolescent & Young Adult (思春期・若年成人)の若者世代のことです。中学生から社会人、子育て世代とライフステージが大きく変化する年代であり、この年代でがんを発症した患者さんは進学や就労、結婚、妊娠などの社会的課題に直面します。

実際にAYA世代のがん経験者の話やがん医療従事者の講演を聞き、がん体験によって受けた生活への影響や直面する悩みや、がんになって見えてくる新しい世界、新しい生殖医療を知り、AYA世代でがんになることの意味やその支援のあり方について共に考えてみませんか？

日本人の2人に1人ががんになる時代、今はがんに関与のない方々もがんと共に生きることについて家族や大切な人と考えるきっかけになれば幸いです。

参加費
無料

プログラム

第1部 講演
10:05~

10:00 開会の挨拶 牧野 智恵 (石川県立看護大学 教授)

10:05 『がんになっても妊娠・出産できますか？』

福井大学医学部附属病院 産科婦人科：折坂 誠 先生

10:30 『AYA世代のがん体験者へ支援のあり方
(研究報告:看護の視点から)』

富山大学附属病院 看護部 がん看護専門看護師
樋口 麻衣子 さん

11:05 『25歳でがんになって』

NPO法人がんノート 代表理事：岸田 徹 さん



第2部 シンポジウム
12:05~

『AYA世代のがん患者の課題と支援のあり方』

12:30 閉会の挨拶 廣野 靖夫 (福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター長)

修了証を発行します (医療従事者のみ)



2021年 10:00~12:30 (受付 9:30)
3月7日(日)



【申込締切】2021年 3月1日(月) ※会場は、定員になり次第、締め切らせて頂きます。

ホテル金沢(2FダイヤモンドA) 〒920-0849
石川県金沢市堀川新町1番1号
TEL 076-223-1111

お申し込み・お問い合わせ

石川県公立大学法人 〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地 (担当:岡山)
石川県立看護大学 TEL 076-281-8300 (代) FAX 076-281-8319

主催：超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
(石川県立看護大学、福井大学)、北國新聞社
共催：北陸CNSの会
後援：石川県、金沢市、かほく市、石川県看護協会、テレビ金沢



▶申し込みはQRコードまたは裏面のお申し込み方法をご確認ください。

おわりに 令和二年の「北信がんプロ」の1年を振り返って



石川県立看護大学学長補佐
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）
石川県立看護大学 がんプロ企画運営委員
企画・総務委員長 牧野 智恵

北信がんプロでの本学の使命は、医学的知識を兼ね備え、アセスメント力をつけたがん看護CNSを育成するために、多職種と連携を図り、がんサバイバーやその家族が安心して治療や看護を受けることができるよう努めることです。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の予防の観点から、様々な企画を中止したり変更したりせざるを得ませんでした。しかし、皆さんの知恵と技術をお借りし、このコロナ渦の状況の中で、新たな教育方法を見つけたこともありました。

昨年度3月に予定していた「がんになっても自分らしい人生を過ごすために～今から家族と人生会議（ACP）を～」を新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け中止しましたが、今年度は、北信がんプロの合同市民公開講座の企画として、本学が中心となり開催できたことは、大きな成果とっております。会場での参加者を制限し、ソーシャルディスタンスを守りつつ、リモートでの参加を可能にすることで、より多くの市民の方にがん医療におけるACPの重要性を周知することができたと思っております。

また、海外研修も実際に海外に出向くことはできませんでしたが、リモートでの研修を企画することで、海外におけるコロナ禍でのがん患者支援の現状について、県内外の医療従事者にお知らせすることができたと思っております。

「臨床で行うリンパ浮腫のケア」に関しても、基礎編では、参加者数を制限し、学内参加者とリモート参加者を募集することで、例年と同じ数の参加者に研修を行うことができたと思います。また、アドバンス編では、開催時間を短くすることで、例年同様の参加者数を維持できました。今後も、コロナ禍の状況でも様々な工夫をし、この企画を継続していきたいと思っております。

テレビ会議システムによる事例検討会は、第1回を後半に延期し、予定の9回を開催することができました。昨年度から、毎月の平均参加数が伸び悩んでおりましたが、YouTubeとの同時参加を可能にすることで、昨年度に比べ1回の参加者数が増え、より多くの方に、看護事例を検討する機会が設けられたことを大変うれしく思っております。

今後がん看護の教育充実とがん医療の発展に向け、さらに全国の大学と連携しながら努力していきたいと思っております。

今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。

2020年度
「北信がんプロ」委員会委員、本学企画・運営担当者 一覧表

総務委員会	牧野 智恵・石垣 和子・西田 義明
教務委員会 e-クラウド小委員会	松本 智里・瀧澤 理穂・桶作 梢・ 松本 礼司・牧野 智恵
広報・ICT委員会	大江 真吾・瀧澤 理穂
オンコロジーセミナー委員会	瀧澤 理穂
運営協議会	石垣 和子・牧野 智恵
企画委員会	牧野 智恵・今方 裕子・大江 真吾

本学 「北信がんプロ」各種企画・運営担当者一覧表

ライフステージ事例検討会 薬学部、医学部共同 (テレビ会議システム)	松本 智里・瀧澤 理穂・岡山 のぞみ
看護実践セミナー リンパ浮腫のケア (基礎編)	今方 裕子・桶作 梢
看護実践セミナー リンパ浮腫のケア (アドバンス編)	今方 裕子・桶作 梢
合同市民公開講座 「がんになっても自分らしい 人生を過ごすために ～今から家族と人生会議 (ACP)を～」	牧野 智恵・松本 智里
北陸CNSの会 共催企画	牧野 智恵・今方 裕子・瀧澤 理穂
市民公開講座 「AYA世代のがん体験談 からその支援を考える」	牧野 智恵・桶作 梢・瀧澤 理穂
報告書	桶作 梢・大江 真吾・岡山 のぞみ

2020年度
北信がんプロ
～超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成～
事業報告書

発行 石川県立看護大学
〒929-1210 石川県かほく市学園台1-1
電話 076-281-8300

発行日 令和3年3月

印刷 (株)大和印刷社

